

Bulletin for Tokyo Metropolitan University Alumni

2014年（平成26年） No.10



首都大学東京同窓会・会報

Tokyo Metropolitan University

同窓会会報 2014年(平成26年) 第10号 目次

巻頭言「改革への動き」	会長 黒石 輯	1
副会長新任挨拶	黒川 信	2
新委員長から一言	千代鳥モーミンウッドイン	2
新任理事就任のご挨拶	石館 陸男、河口 修、久崎 力 久保田丈夫、林 正弘	3
評議員に立候補をお願いいたします		4
東横線・都立大学駅のいまむかし		4
全評議員のご紹介		5
2014年 首都大学東京同窓会・委員会組織と構成メンバー		6
同窓生はいま		7
木賊小舎にて	生和多恵子	7
都立大育ちの弁護士	飛田 桂	7
富岡製糸場が世界遺産に登録!	小須田弘幸	7
アジアを見てやろう	堀内 顕秀	8
理系女子進学応援プロジェクトに参加して	河野 直子	8
パプアニューギニアへ慰霊巡拝して	今井 信一	9
被災地での保健師活動	虎谷 彰子	9
佐渡の山里に暮らす	出戸 達雄	10
鳥人間コンテスト2部門で入賞		10
特別寄稿「日本の海岸線一周を歩く」	江守 善昭	11
消息不明者リスト		11
特別寄稿「クーベルタン生誕150周年記念メダル」受賞と感慨		
	東京都立大学名誉教授 飯塚 鉄雄	12
東日本大震災に向き合う同窓生の皆さん		13
戦場から帰還した勇士	桑畑 眞一	13
荒キャン東北応援隊 活動	今井麻菜美	13
浪江町役場の職員として	井上 航	14
震災復興に向けての取り組みーいわき市豊間地区	佐藤 俊一	14
母校はいま		15
キャンパス紹介ー日野キャンパス		20
つなぐ研究室紹介シリーズ「社会人類学研究室」		22
大学事務局からのご報告		23
首都大学東京での研究支援活動と産学公連携の取組みについて	桜井 政考	25
支部だより 北海道支部 関西支部 九州支部		26
八雲クラブ新年会のご案内		27
八雲クラブで会いましょう	丑山佐千男	27
8年目の寄付講義		28
司法試験74校中14位で合格率は22.9%		28
同窓会事務局からのお知らせ		29
表紙のことは「エギーユ・ドゥ・ミディ尖峰群」	安部美津子	30
同窓会規約を改正します		31
第10回評議員会議事録		34
第10回総会議事録		35
寄付者ご芳名とお礼のことは		36
訃報		38
TMU PLAZA		39~43
TMUSMCの半世紀(39) 都立大・理・化学4期「ふかさわ会」開催(39) 東京都立大学/首都大学東京 物理化学第二講座の集い(40) Wien大学カーボンナノチューブ研究者とのMeC有志の懇親会(41) 留学生と現役学生を招いてのひな祭り会(41) 第39回「埼玉八雲会」研修懇親会報告(42) 工学部機械工学科14期同窓会(42) 都立大 理 物理4期 一泊旅行の開催(43) 2014年度(第21回)七機会(43)		
首都大学東京同窓会・会計報告		44
TDS(株)都立大学同窓会サービス)会計報告		表3
2015年首都大学東京同窓会 総会・講演会・新年会		表4



写真上から南大沢キャンパス
1号館・光の塔
日野キャンパス
科学技術交流施設
荒川キャンパス
図書館棟

改革への動き

首都大学東京同窓会 会長 黒石 輯

今年は1100余名の新しい同窓会員をお迎えした。気軽に同窓会の各種行事に参加していただき、若い感性で同窓会に新風を吹き込んでいただくことを期待している。

このところ、大学がある南大沢に行く機会が多くなった。

昔は一面の雑木林だった丘陵が、瀟洒な店や高級感のある住宅地に変貌している。ところが、大学構内を歩いていて、「いのししに注意！」という張り紙を目にした。大学周辺に豊かな緑地帯があり、そこを棲み処にしているらしい。いまだ里山の雰囲気をも感じられ、心が和む。

過日、原島学長から次のような話を伺った。

「イギリスの教育専門誌 (Times Higher Education) が、世界で2万余ある大学のランキングを発表したが、わが校は世界で221位、アジアで27位、国内で6位となっている。なかでも研究部門ではMIT (マサチューセッツ工科大学) と並んで最高の評価を受けている」

この話を聴いていた大先輩の同窓会員の一人が、首を傾げながら呟かれた。

「国内6位という専門機関の評価は嬉しいが、世間の評価とはだいぶ乖離があるように思う」

「この乖離はどうして生じているのだろうか。母校には世界的に優れた研究をされている教授方がおられるが故に、専門機関による評価ランクが大幅に押し上げられているという面もあるが、受験生の大学を選択する基準が変化してきているというのも一因だろう。受験生にとってより魅力のある大学にするために、現状を十分に分析したうえで、対応策を講じる必要があると思うが・・・」

お二方の話がまだ耳に残っている間に、同窓会が提供している『プロ

ジェクト奨励賞』の選考を行うことになった。応募案件は10件で、いずれも意欲的な企画であったが、中でも注目したのは、「首都大学東京の一層の発展を期すために、OB・OGとの交流会を運営する」という今までになかった視座の企画案件であった。企画内容は粗削りで十分に練られていないくらいがあったが、それでも選考委員全員が好意的な反応を示された。上記の大先輩会員が呟かれた本旨と同一視できるテーマであると思われるし、何よりも、当該企画を学生自らが発意したことに意義を認めたからに他ならない。今後の具体化に向けた展開が楽しみである。

一方で大学側も、魅力ある大学造りの一環として海外留学推奨に関する諸施策を講じつつあり、私どもには「留学中の学生が安心して学業に励めるように、現地在留の同窓会員のサポートのあり方を検討してもらえないか」との申し出を受けている。残念ながら、同窓会では会員の現住所すべてを把握しているわけではないに、コトはそう簡単に運びそうもない。本件に関して、諸兄から建設的なご意見をお寄せいただきました。

いまや、各大学が教育や研究体制を中心に、広い範囲で改革を行おうとする潮流が顕在化してきたと思われる。大学入学時期を春から秋に変更すべく検討に入ったという情報が流れ、4学期制の導入を決定した大学もある。今国会で学校教育法が改正されたのも、この改革の動きを後押しするものであるだろう。

私ども同窓会としても、同窓会規約4条1項に基づき、母校の一層の発展に助力していきたいと考える。

副会長新任挨拶

副会長・広報委員会委員長 黒川 信 (都28・生物)

この度、副会長の一人に選ばれました。若輩者で微力ではありますが、理事、評議員の方々とともに黒石会長を支え、会の円滑な運営と一層の発展のために尽力したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

私は大学院修了後、一時民間企業の研究所に所属しましたが、その後都立大学生物学科に就職し現在に至っています。首都大学東京の現職教員で同窓会役員をつとめる者の一人として、同窓会と大学を様々な面であらためていくことがひとつの大きな役割と考えます。とかく実社会とのつながりが希薄といわれる今日の学生達にとって、広い世代にわたり各界で活躍される5万人余の会員を擁する同窓会組織は最も身近な社会との架け橋です。同窓会と大学との間に確固たる相互協力関係を構築していくことは、確実に両者の発展に大いに寄与しますが、とりわけ将来の

同窓会員である学生達にとってその恩恵は大きいものです。

同窓会と大学の連携強化の一助となればと、卒業生担当の繁田副学長とも相談しつつ、2015年(平成27年)11月初旬に南大沢キャンパスにおいて「ホームカミングデー」を開催する方向で検討中です。今後、多くの会員の皆様に各キャンパスに気軽に足をお運びいただき、母校の姿を直接見聞し、首都大学東京とのつながりを実感し、新たな関わりを見いだす機会を多く設けていければと考えます。

広報委員会では委員長を拝命致しました。会誌『TMU』発行の仕事の殆どを編集、出版の大ベテランの諸先輩に頼っておりますが、小原(機械工学科)、関根(放射線学科)両理事らとともに、現職教員として大学の現況を積極的にわかりやすく発信することで会員が「母校」首都大学東京を少しでも身近に感じて頂けたらと考え務めて参ります。

新委員長から一言

情報管理委員会委員長 千代鳥モーミンウッディン (都23・化工)

この度、情報管理委員長となりました千代鳥モーミンウッディンです。現在は、好むと好まざるとに関わらず、世界はグローバル時代です。インターネットのお蔭で第三世界の情報発信、交換も驚くほど発展をしています。これらのツールを使うことで、コミュニケーションレベルも上がっています。人間が作り使うものから、使い方により問題もありますが、これらのツール、メディアは、それなりに活用するべきだと思います。

私は、情報管理委員長となります

千代鳥・モーミンウッディン
ちようどり
(都24・工化院)工学博士号
取得。(株)チヨウドリソフ
トウェアサービス代表取締役社長。特定非営利活動法人ちきゅう市民クラブ
会長。インド生まれ、バン
グラーデシユ育ち、現在は日
本国籍。



たので、是非首都大学東京同窓会の皆さんにもメールを使つての情報交換やインターネットでの情報収集、さらにその情報をどう読み解くかなど、ドリテラシーの問題提起などをしながら、意義ある活動を提案したいと思ひます。指を使うとボケ防止にもなりますので、キーボードの入力は、一石二鳥です。様々な視点で情報収集、交換、解読など、楽しい委員会にしたいと思ひます。現役学生との交流も積極的に取り組みたいと思ひます。



黒川 信
くろかわ まこと

(都28・生物)首都大学東京理工学系生命科学専攻准教授。専門は神経生物学。全学を対象に伊豆大島、八丈島、小笠原などで開講している学外体験型教養科目にも積極的に取り組んでいます。

新任理事就任のご挨拶

同窓会の情報発信を

工夫する

久崎 力(都9・電気)

学生の海外留学支援の

制度を!!

石館 陸男(都12・機械)

首都大学同窓会寄付講座の講師として数回大学で講義をさせていた。いた関係から、このたび同窓会の理事に就任いたしました。

1964年度卒業以来商社勤務を続け、2003年に退任いたしました。約40年の会社生活の中で、15年以上の海外勤務と80ヶ国以上の海外出張をいたしました。

我々の現役時代はどのような国でも海外に行けることが夢であり、いかなる国に派遣されても喜び勇んで出掛けました。

しかしながら、最近は商社に海外志向で入ってきたはずであるのに、あまり海外に行きたがらない、あるいは行き先の国によっては断るようなことが増えてきていると聞いています。これは近年若い人に共通の内こもり現象の様で海外留学生の数も

10年前に比べ半減しているようです。一方中国や韓国では留学生が倍増しています。

ますますグローバル化している世界の中でこのような若者が増えていることに危機感を持っています。学生への講義でも出来るだけ海外に出て、異なる文化、宗教、習慣に触れまた違う価値観の人々と付き合うことよって、人間の幅を広げて行くことが大切であると強調しています。勿論同窓会の一員として学生が海外に安心していけるようにどのような支援が出来るか、今までの海外駐在の経験も踏まえて検討していきたいと思っております。

若い同窓会員の

参加機会を増やそう

河口 修(都20・電気修士)

このたび、ご推薦を頂き、同窓会理事に就任しました河口 修です。40年間、東京を離れ、関西、九州に

赴任し、東京に戻りました。大学本部移転、校名変更で同窓会と疎遠になり、理事の大石先生のお蔭で同窓会とコンタクトが出来た次第で、感謝しております。

最近、同窓会活動に参加し、感心することがあります。同窓会が在校生、教職員、卒業生と連携し、活動している姿です。寄付講義、大学祭への参加支援、八雲サロンなどがその例になると思います。

前述に反し、残念なこともありま。話題に上る住所不明者が多いことです。移転しても住所変更していないためではないでしょうか。同窓会の郵便物が届かないため、同窓会の情報が皆無になり、同窓会への関心が皆無になる、ということでしょう。今ではメール等の活用で改善が図られる、と思います。

若い世代の同窓会行事不参加が多いが、大学祭の在校生クラブのコーナーでは若い(子育て世代を含む)卒業生が結構、立寄っているのに驚きました。こうした意味では同窓会が工夫し、若い同窓会員の参加機会の増加を検討する時期に来ている、と思います。

諸先輩方が築いた良い同窓会の制度を後輩達が活用し易い形に見直すことが必要、と思います。皆様のご支援、ご協力、宜しくお願い致します。

今まで評議員として同窓会へ参画していましたが、やはり理事として貢献すべきと考え立候補いたしました。ある時、就活中の学生と話す機会がありました。ほんの数分の世の中の現状の話や過去の経験話に彼は「もっと早くお話を伺うべきでした、残念です」と夜行バスで大阪に帰りました。

入学して早い段階に「自分の現在・過去・未来について自らを、気づかせる」には卒業生の経験が必要と考え、在校生との交流会を計画いたしました。昨年2回開催し、その効果も確認しました。また、卒業生との交流に加え、異なる学部との交流も必要でした。更にこの活動を留学生へも拡大して、クリスマス会やひな祭り会を開催し、ささやかですが国際交流を深めることが出来ました。

昨今、多くの大学で同窓会への参加が少なくなっていると言われています。この改善には在学中から同窓会への関わりを持つようにさせるべきで、そのためにも交流会を増やしたいと思っています。なお、理事会では「情報管理委員会」に所属し、情報発信の工夫をしたいと考えてい

ます。更に Skype 等を活用して理事會に多くの理事が参加する様に出ればと考えています。

学生との

コミュニケーションの 機会を増やしたい

久保田丈夫（都18・工・電気工学）

このたび八雲同友會のご推薦を頂き同窓會の理事に就任いたしました久保田丈夫です。卒業以来、学生時代に所属していたスキー部以外には特段の接触がなかったのですが、2011、12年と寄付講座で講演し、久しぶりに現役大学生とのコンタクトを持ちました。

その際、学生たちに課したレポートの採点をおして母校の学生諸君の思考、感性、悩みに触れ、人生や仕事の先達として私でも少しは彼らに貢献できるのではという思いが芽生えました。本年68歳にしてやっと企業活動からも卒業できたので、これからの個人としての時間の幾ばくかを、次世代を背負っていく後輩のために貢献できればと考えて理事就任をお受けいたしました。

振り返ると私たちの学生時代は大学紛争の真ただ中にありました。が、人生の中でも常に甘く切なくそして一秒一秒が熱く重く思い出され

ます。後輩たちにとって4年間の学生時代に続く、何倍にもなる卒業後の社会人としての世界を充実させるため、今何をなし、何を感じるべきなのか、彼らとのコミュニケーションの機会を増やしていきたいと思っています。私のポリシーは「常に熱く燃えて輝く」です。

ホームページを

見えますか？

林 正弘（都14・経済）

昨年の12月開催の第10回評議員會にて理事に就任いたしました林 正弘です。70歳になりましたが、ますます元気で「血の気の多い青年」と自負しております。

評議員を務めているときから、同窓會の財政問題に大変心を痛めておりました。理事になりましたら6ヶ月過ぎ、問題意識がますます増大しております。理事会と事務局の皆様方は、同窓會の活動を如何に活性化し、会員の皆様にご参加・ご賛同をいただくことにより、同窓會活動の財政基盤であります同窓會費の納入に、会員諸兄のご理解を得たいと熱心に取り組んでおります。また、同窓會活動が活性化すれば、今後の新入会員へもアピール度を上げることが出来るのではないかと思います。

私も微力ではありますが、同窓會活動の活性化に全力で取り組んでまいります。

しばらく同窓會と疎遠になっておられる方が多いと存じますが、まずは「首都大学東京同窓會」のホームページを定期的にご覧いただきたいと伏してお願ひ申し上げます。

□評議員に立候補を

お願いいたします□

同窓會は、会員の皆様方の参加によって、運営されておりますが、全員の参加は、不可能ですので、「評議員」の方々に、会の意思決定に参加していただいております。

評議員の選出は、規約第14条に定められておりますがご参加いただける方々は少なく、特に、若い世代の方々の参加が少なく、将来、会の運営にも影響が出ることを予想されます。

評議員の方々には、年一回の「評議員會」への出席をお願い致しております。これによって、評議員の方々による会員の意見の伝達も期待しております。

評議員として、会員との連絡役も期待しているところです。多くの方々の立候補をお願いする次第です。



東横線 都立大学のいまむかし
1930年ころ、旧制府立高等学校
創立の頃の「府立高等前駅」(右)。
1963年東京オリピック開催の
前年に高架化された「都立大学駅」(左)
(写真はWeb「Life Photo」より転載)



2014年 首都大学東京同窓会・委員会組織と構成メンバー

2014.05.21現在（理事会）

委員会名	委員長・副委員長		委 員	
総 務	委員長 副委員長 副委員長	大塚 昶之助 (都06法学) 澤井 泰 (都07法学) 林 正弘 (都14経済)	榎本 昌史 (科07機械) 西形 勝宏 (医01放射)	
企 画	委員長 副委員長	森 忠保 (都14物理) 河口 修 (院工20電気)	大石 不二夫 (都11工化)	
広 報	委員長 副委員長	黒川 信 (都28生物) 野原 剛 (都04化学)	根谷崎 武彦 (都10化学) 小原 弘道 (科03機械) 関根 紀夫 (医01放射) 齋藤 夕子 (医07地域) 柳川 義晴 (都11経済)	村山 祥彦 (都05経済)※ 加藤 充子 (都09経済)※
組織整備	委員長 副委員長	荻原 信吾 (都24仏文)	澤井 泰 (都07法学) 榎本 昌史 (科07機械) 大塚 昶之助 (都06法学) 丑山 佐千男 (都22法律) 関根 紀夫 (医01放射)	
財 務	委員長 副委員長	吉田 俊雄 (都19数学) 石館 陸男 (都12機械)	石井 陽介 (首2009法律) 久保 義丸 (都42法律)	
イベント	委員長 副委員長	末光 正忠 (都20心理) 関根 紀夫 (医01放射)	榎本 昌史 (科07機械) 石館 陸男 (都12機械) 小原 弘道 (科03機械) 黒川 信 (都28生物) 横川 邦明 (都24機械) 柳川 義晴 (都11経済) 大石 不二夫 (都11工化) 河口 修 (院工20電気)	滝口 亨 (都26数学)※ 小野 修一 (都34法律)※
八雲クラブ	委員長 副委員長 副委員長	丑山 佐千男 (都22政治) 左田野 涉 (都29法律)※ 水津 まき子 (都20社会)	荻原 信吾 (都24仏文) 石橋 穠治 (都13建築)	運営担当 後方支援担当 《運営担当委員》※ 大林 清一 (都25生物) 池田 敬二 (都42社会) 本橋 唯弘 (都19政治) 《後方支援担当委員》※ 中澤 勲 (都12電気) 《ニュースレター担当委員》※ 内田 宏寿 (都25経済)
情報管理	委員長 副委員長	千代鳥モ-ミンウツアイン (都24工化) 久保田 丈夫 (都18電気)	松本 公一 (科05機械) 久崎 力 (都09電気)	笛木 國弘 (都33物理)※ 畠山 久 (首08.03地理環境)※ 谷貝 等 (都35地理)※ 遠藤 洋 (都36工化)※

(注 ※理事以外の委員)

株式会社 都立大学同窓会サービス (略称TDS)

代表取締役	石橋 穠治 (都13建築)	
取 締 役	末光 正忠 (都20心理)	河口 修 (都20電気)
取 締 役	横川 邦明 (都24機械)	杉村 哲雄 (都12法学)
監 査 役	松本 傳 (都07経済)	吉田 俊雄 (都19数学)

同窓生はいま

木賊小舎にて

生和多恵子（都25・人文・心理）

生和多恵子
せいわ たえこ
昭和52年卒。東京都立大学
人文学部人文科学科心理学
専攻卒。1985年、杉並
区に心理技術職として入職。
現職 杉並区教育委員会事
務局特別支援教育課心理担
当係長。



飛田 桂
ひだ けい
53期東京都立大学法学部法
律学科卒業。2014年1
月 日本大通り法律事務所
入所



今、群馬県鹿沼温泉にある都立大
学ワンダーフォゲル部の山小舎にい
ます。梅雨明け間近の蒸し暑い東京
から一転、薪ストーブのはぜる臭い
が心地よく、燃える炎をみています。
在学中、ワンゲル活動7割、心理
学専攻3割でしたが、還暦を迎える
今日まで、一貫して臨床心理による
対人援助の仕事が続いています。現
職は杉並区の教育相談で特別支援・
学級教育支援が主たる業務です。昨
今の社会情勢の変化により困難が増
しており、仕事の幕引きができそう
もなく、激務に何とか耐えています。

卒業以来、今日まで私を支えてく
れたのは家庭と山旅です。ワンゲル
同期の夫と共に、子供達の成長に合
わせて、山登りや旅を続けました。
息子達が成人した今、ちよっとハー
ドな山スキーを再開しました。湯の
丸山を中心とした小屋周辺は手軽な
バックカントリースを楽しめます。最
近は、北海道の山や鳥海山の山スキ

ーに挑戦し、現役時代に体験した感
激や畏れを再び体験しました。

ワンゲルOB会有志で始めた「ユ
ーラシアを歩く会」にも参加し、ト
ルコや中央アジア、日本を歩いてき
ました。今にして思うと、すべてが
「終の棲家」を求めての旅であった
ようです。当面の「終の棲家」はこ
こ「木賊小舎」です。ワンゲルの先
輩達が作った山の住家をしつかり受
け継いで、次の世代に繋いでいきたく
いと願っています。

「木賊小舎」に関心のある皆さん、
一度、足を運んでみませんか。歓迎
します。

都立大育ちの弁護士

飛田 桂（都53・法・法律）

都立大学法学部法律学科を卒業し
てもうすぐ10年になります。今も都
立大時代からの友人と会うと、「や
っぱり都立大の人と会うと落ち着く
よね」なんて話しています。大学時
代、私は、お金もなく、学もなく、
友人にだけ恵まれていました。

アルバイトしていた中央大学の学
生食堂でよく、真っ暗になった広い
食堂を掃除しながら、法学部専用の
自習室で勉強する学生達を見上げて
いました。汚い恰好の私には、その
自習室はいつも輝いて見えました。
それでも、疲れ切った足を自転車の
ペダルに預けながら携帯電話で友人
と話せば、人を妬んだりする気持ち
に囚われることはありませんでした。

私は、一人の都立大生に戻ります。
お金がなくても友達に囲まれて幸せ
だった日々が私を癒し、導いてくれ
ます。
今、法曹界は過渡期にあります。
様々な問題提起もされていますが、
悪いことばかりではありません。
「新」司法試験のもと、事案分析能
力の高い弁護士が現れるようになり
ましたし、無料法律相談枠を設ける
事務所も珍しくなくなりました。

今、私は弁護士になりました。交
渉案件、民事訴訟事件、刑事事件、
契約書チェックといったものから、
高校への出前授業まで、様々な経験
を積ませてもらっています。
仕事に向き合うときの私のスタン
スはただ一つです。人間性を忘れな
いこと。依頼内容を、ただの「事件」
やただの「契約書」に落とし込まな
いこと。

この時代に法曹となった人たちが、
苦しみもがいて競争する中で生み出
すものは、きっと日本の将来を下支
えしていくと思います。
私も、次の世代によりよいバトン
を渡せるよう、この社会のために少
しでも何かをして邁進していきたい
と思っています。

富岡製糸場が世界遺産に登録！

小須田弘幸（都13・工・工化）

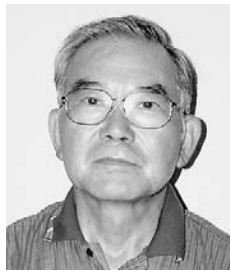
迷ったときは、いつも「この依頼
が自分の子供や友達からの依頼だっ
たらどうするか」を基準に動きます。
逮捕された青年が我が子だったら、
契約書を見てくれと言っている会社
が友達の家社だったら、養育費の取
り立て依頼が友人からだったら、そ
ういう風に考えて、最善の一手を考
えるようにしています。

私がボランティアガイドをしてい
る富岡製糸場を核とする「富岡製糸
場と絹産業遺産群」の世界遺産登録
が、中東ドーハで行われた国連の世
界遺産委員会です。2014年6月21日
に承認され、6月25日に登録された。

そうして、辛くなると、都立大を
思い出します。あのモニュメント、
チューニングの音が響きわたる学生
棟、学生を見守るかのような緑、友
人達に囲まれた日々。そうすると、

富岡製糸場は1872年に明治政
府が、日本の殖産興業のため建設し
た繭から生糸（絹）を取る工場であ

小須田 弘幸
 こすだ ひろゆき
 群馬県立高崎高校卒。
 '65年都立大学工学部工業化学
 科卒。東邦レーヨン(株)入社。
 主席研究員、化成品開発部
 長、東邦コンポジット(株)取
 締役を経て'02年退職。群馬
 にUターン。



堀内 顕秀
 ほりうち あきほ
 東京都立白鷗高校卒。
 2012年4月首都大学東
 京、都市教養学部経営学系
 経済コース入学、現在3年
 在学中。



り、明治政府が建設した日本で最初の西洋式生産工場である。最初は明治政府が運営した官営工場であったが、1893年に三井家に払い下げられ、その後、原合名会社・片倉工業と経営者は変わったが、片倉工業が1987年に操業停止するまで、15年間にわたり、ずっと日本の製糸業のメッカとして生糸を生産し続けた工場であり、明治5年に建てられた「木骨れんが造」の工場の建物群がほぼそのまま残っている。

富岡製糸場は明治政府に雇われたフランス人の設計、指導により建設され、繰糸器(注)もフランスから輸入された。輸入された繰糸器は一人で2本の生糸を取る簡単なものだったが、その後日本で改良を重ね、1965年ころ日産自動車が開発し、富岡製糸場に据え付けられた日産HR型自動繰糸機では、一人で120本の糸が取れた。この日産HR型自動繰糸機はその後フランスを含む全世界に輸出され、現在でも世界最新鋭の繰糸機として世界中で使われており、世界の絹産業に大きく貢献している。また技術の進歩により、絹のコストが下がり、それまでは大富豪しか使えなかった絹製品が我々庶民も使えるようになり、世界に新しい絹文化を創造した。このようにフランスから輸入した技術をもとに日本で発展し、技術的、文化的に世界に貢献したことが認められ、世界遺産に登録

されたのである。今群馬県民は喜びに沸きかえっている。
 昨年MeCの方々には見学に来ていただきましたが、皆様もぜひおいでください。お待ちしております。
 注：簡単な機器であることを示すため、あえて繰糸器と書く。



MeCの皆様と富岡製糸場にて(前列右端が筆者)

ご存知でしょう。私はベ平連を学ぶにあたり、この本に出会いました。この本を読めば世界に飛び出したいなってしまうもので、バックパックを背負い海外へ行くという私の大学生活は始まりました。

とは言っても学生の「特権」である「貧乏さ」の影響で、今までバックパッカーとして旅をしたのは比較的飛行機代の安い東アジアの8つの国々と地域になります。それぞれの国が個々の特徴・雰囲気を持っているのですが、今回はタイのカオサン通りに絞った話をしたいと思います。

「カオサン通り」と言えば、別名「バックパッカーの聖地」とも言われるほど様々な国から来たバックパッカーが旅の情報収集のために集まっています。私がここで強調したいのは、この通り自体が異質でカオスな雰囲気を持っていたということです。そこら中に怪しげな店があり、夕方ころになれば店から外に音楽が流れてきます。そこで多国籍な人々がお酒を酌み交わし、政治・文化の話から恋の話までです。そこに加われば、自分が小田実の『何でも見てやろう』の世界にいるかのよう

に感じるのです。これほど刺激的な街はないようにさえ感じます。大学生という人生の中でも特殊な時期にたくさんさんの文化に、そしてたくさんの人々に触れることはとても大切だと思います。そう言う意識を

大切にしながら残りの大学生活も過ごしたいと思います。
 書きたいことはまだまだありますが、スペースの関係で割愛。



タイのカオサン通り

理系女子進学応援プロジェクトに参加して

河野 直子
 (首都大2014・都市教養・物理)

私は今春物理学コースを卒業し、現在、理学専攻で分子イオンの冷却過程について研究しています。ここでは、学部時代から取り組んでいる、理系女子進学応援プロジェクトについてご紹介します。

近年、理系女子を指す「リケジョ」

アジアを見てやろう

堀内 顕秀
 (首都大・都市教養 経営系・3年)

突然ですが皆さんは、小田実さんの『何でも見てやろう』という本の

河野 直子
この頃、なおこ
'10年神奈川県立大和高等学校卒業・14年首都大学東京都市教養学部都市教養学科理工学系物理学コース卒業・同年首都大学東京大学院理工学研究科物理学専攻入学。修士1年。原子物理実験研究室(田沼研究室)所属



今井 信一
いまい しんいち
東京都立田園調布高校卒業。1968年東京都立大学工学部機械工学科卒業。同年、三菱鉛筆(株)入社、以後研究開発、商品開発、企画に従事し、1997年より取締役商品開発を担当し、3年退社。



という言葉が注目されています。首都大学東京でも、昨年から理工男女共同参画ワーキンググループが理工系女子進学応援プロジェクトを始動しました。大学院生・学部4年生(指導者含め5-10名程)がティーチングアシスタント(TA)として女子高に出向いて、進路選択において理系に興味があっても決めかねていたり、文系か理系か迷っていたりする女子高生に理系進学の魅力を伝えようというものです。訪問時毎に集めているアンケートでは毎回好評を頂いており、昨年6月にはThe New York Timesから取材を受け、数名のTAの発言が掲載されました。



横浜共立学園訪問時の様子

これまでいくつかの女子高への訪問や大学説明会でのオープンラボに参加してきて、このプロジェクトは高校生だけでなく大学(院)生にも

大きなメリットがあると私は感じました。理工系主催のプロジェクトのため、普段は交流のない様々な分野の学生・教員と交流できること・毎回発表のスタイルや内容はほとんど自分たちで考えるので発表だけでなく企画から携われること・学部生時代にはほとんどない、初見の方々の前でプレゼンする機会が与えられること等です。これらはどれも進路に関係なくとても貴重な経験だと思いますし、この経験のおかげか、卒研発表では緊張せずに発表することが出来ました。今後も出来る限り参加していきたいと思っています。

パプアニューギニアへ 慰霊巡拝して

今井 信一 (都16・工・機械)

政府派遣慰霊巡拝団としてパプアニューギニアへ行った。2013年11月のことである。3月には顧問を最後に長年勤めた会社を68歳で退職し、タイムリングとしては良い機会であった。厚労省の担当者など11名の団員で、太平洋戦争における親族の戦死地で慰霊巡拝を行い、そしてこの地域で亡くなった人々の合同追悼式をとり行うことが目的である。

広さが日本の12倍のこの国は、4000m級の山岳が島の背骨のよう

に横たわり、ジャングルや沼地が多く、インフラとしての幹線道路などがなく、離れた地域へは航空機を利用するしかない。オーストラリアに近い首都ポートモレスビーから、赤道側にある目的地ポンドッタ、マダン、ウエワクへは航空機で山を越えた。現地巡拝はトラックによる移動で、我々は2台のトラック荷台の対面座席に座る。緊張したのは不測の事態に備えて1台ごとに警察官が乗ることだった。また、陸上移動が困難な場所へは、海上よりエンジン付きの小舟を利用しなければならなかった。

1944年、父は私が生まれて2ヶ月後にアイタペ西方で生死不明となった。その地域へは道路事情と治安状況により行かないとのこと、途中の激戦地、板東川までの道のりであった。ウエワクを離れるにつれてジャングルを切り開いた林道になる。凸凹道でスピードは出せず、激しい揺れで尻が痛くなる。途中、河川が何本もあるが半分くらいは橋がない。幸い天候に恵まれたので、車輪は水に浸かるが浅瀬を探りながら何とか渡ることが出来た。板東川のたもとに到着し、国旗を張り現地慰霊を行った。私は父を長い間一人にさせていたことを詫言、安らかに眠るよう祈った。戦時、パプアニューギニア地域には15万人が送られ、12万人が戦死、まだ5万人の遺骨が眠

っているという。兵士たちは熱帯雨林の山岳越え、ジャングルや沼地の敗走に憔悴し、力尽きていった。マラリアや飢餓で亡くなった兵士が多く、この地での戦いが如何に凄惨なものだったかが伝えられている。最終日、ウエワクの戦没者の碑において、現地日本大使館やニューギニア政府関係者が列席し、戦没者の合同追悼式が行われた。この7月、安倍首相が訪問され献花、黙祷されたのがこの地であった。



慰霊祭で礼拝をする筆者

被災地での保健師活動

虎谷 彰子

(医技短・地域看護専攻7期)

発災から半年を過ぎた十月末、いわき市に避難した広野町の支援とし



出戸 達雄
とと たつお
福井県立高志高卒。
73年都立大学理学部物理学科
卒。情報処理関係の団体職員
後、大橋工業所代表取締役。
福島県川内村に移住、今回の
原発事故による放射能被災
で全村避難、現在佐渡ヶ
島に移転。



虎谷 彰子
とらたに あきこ
医療技術短期大学地域看護
学専攻卒後、世田谷区役所
で保健師として勤務し現在
に至る。

て、世田谷区から2名の同僚と8日間の派遣活動に従事した。放射性物質の影響により自宅を離れ、被害の様相も津波や倒壊、家財の盗難など様々で、「辛さを共有できない」と話す方もおり、住民の方の思いは複雑だった。

町の保健師（1人）・看護師とのチームを組み、仮設住宅入居者の健康相談会や戸別訪問を行い、入居者の健康状態を把握した。
一ヶ月後に特別区からの保健師派遣の終了を控える中、支援対象者は千人を越え、早晚立ち行かなくなるのが見えていた。派遣終了後も地元職員が活動できるように、支援対象を専門職の関わりが必要な方に絞り込み、町主催の相談会をNPO主体の健康サロンに切り替えた。また、町の職員の思いを汲みながら活動の優先順位を整理し、住民の居住場所に応じた健康状態の把握計画を立案、次期派遣区へ引き継いだ。
派遣を通じ、すぐにチーム活動ができるという専門職の強みや、日頃の地区活動や保健事業で培ってきた知識・経験が災害時にも生きることを実感した。派遣終了後は、区民主催の勉強会等で経験談を報告し、災害時の備えと一緒に考える機会に役立っている。誰もが被災地への関心を失わないこと、また復興が進むことを心より願っている。



地元職員・NPOとの打合せ

佐渡の山里に暮らす

出戸 達雄（都21理・物理）

福島第一原発から23kmの川内村を
終の棲家に選んでから7年目、原発
事故による放射能汚染被災のため、
再び我が家は移転を余儀なくさせら
れました。2011年3月佐渡へ移
りました。

佐渡に辿りつき4ヶ月目にして漸
く借家が見つかり、早速自分達で改
造にとりかかりました。納屋の天井、
床、壁を補修し風呂、キッチンを整
えて冬に間に合わせました。母屋の
方は築120年、100坪以上もあり、床は
朽ちて、雨漏り状態でしたが2年経
ち、思い切って大改装しました。

過疎の進むこの部落に恩返しので

持ちを込めて、村人が気楽に集える
サロン二宮萬友荘として昨年スター
トしました。内容は催し物/雅楽、
ワイン試飲会、のろまん形劇、落語、
コンサートなど、食事/東京の料理
教室に長く通った経験を活かして予
約制のランチや甘味、弁当など、十
日蕎麦/毎月十日にそば職人が出張
して更科と十割蕎麦を、二宮市/毎
月第3土曜日、地域の方々が産物を
持ち寄って交流を深めています。妻
の真佐子は天然酵母パンANN工房
を立ち上げ毎日パンを焼き、田んぼ
と畑も少々やっております。



二宮萬友荘で雅楽演奏会

多くの方々助けられ瞬く間の3
年には、母二人を見送り、同様に全
国に避難している知人友人たちが苦
悩し精神的に落ち込んでいく姿を数
多知りました。私自身も思わぬ病氣
になり現在療養中です。福島の家も

田舎暮らしも幻のごとく消え去りま
したが、佐渡で再び生きる望みを取
り戻しつつあります。人との出会い
こそ財産であると実感し、島の奥深
い魅力に取り付かれながら一日一日
が有難いと思える日々です。

鳥人間コンテスト

2部門で入賞

夏の風物詩、鳥人間コンテスト
（7月26日、彦根市）において、人
力プロペラ機タイムトライアル部門
に参加の「鳥人間部「T-MIT」」（部長
三木あやさん（システムデザイン学
部3年））が準優勝、滑空機部門に
参加の「人力飛行機研究会「MAPPL」
」（部長石黒多紀さん（人文・社会系
3年））が、3位とすばらしい成績
で夏の琵琶湖で颯爽と飛行しました。



インダストリアルアートの視点からも設計されたT-MITの機体

日本の海岸線一周を歩く ワンゲルOB会の次なる野望

江守 善昭 (都9・法経・法律)

ワンダーフォーゲル部(ワンゲル)OB会では、1996年ロンドン郊外のグリニッジを出発し、リレー方式で歩き、ユーラシア大陸を横断して日本橋に至る2万キロを北朝鮮を除いて歩きました。その後ユーラシア歩行のエッセイ集、写真集を刊行して、さて次は何をやるのかの喧々諤々(けんけん)の議論の末に日本の海岸線一周を歩くことにした。日本の国土面積は小さいが海岸線の長さは世界第5位で主要4島だけで2万6千キロもある。国内の歩き方もリレー方式なので各地に住むOBが参加し易く、

ウに茂って歩けずに山上の県道から海岸へ登り下りさせられた。静岡市用宗から焼津に至る大崩海岸道路は伊豆大島で甚大な被害をもたらした同じ台風で、県道が陥没して交通止めになり、山道を必死に歩いて人里に出たりした。

現役のワンゲル部員も歩いている。2013年4月1日桜咲く日本橋から西に向って歩き始めたが、首都圏の海岸線は工場、空港などで海には近づけず三浦半島に至ってようやく海を見ての歩行になった。伊豆半島では東西の経済格差を実感した。東伊豆は鉄道も通り温泉も豊富だが、西伊豆は過疎化が進み、高齢者だけが残っている部落があり、かつて部落間をつないでいた生活道路だった山道が遊歩道と名を変えて残っているが、手入れされずに草がボウボ

日本橋からの東海コースは順調に歩を進め2014年5月には渥美半島を回り、知多半島を目前にする碧南に至っている。別の方面では山陽道を下関から東に向う組があり、西行組といずれ何処かで合流する。紀伊半島は熊野から串本に進んでいる。能登半島も伏木から反時計回りに輪島に至った。四国は札所をお遍路しながら土佐の海岸を廻っている男がいる。日本の海岸線一周を完歩出来るのは10年後かその先になるのかは見当もつかない。

江守 善昭
えもり よしあき
1961年法経学部法学科卒だがワンゲル卒と自称、国内証券会社から外資系に移り2012年に完全退職。海外勤務ニューヨークに6年。OB会会長を6年務めた後に「日本の海岸線を歩く会」の会長に祭り上げられた。



海岸線一周といっても冒険旅行ではないので、波を被っての岩場渡りなどはやらない。海岸に近い人の歩ける道を歩くことにしている。ユーラシア歩行では土地不案内なので主に国道を歩いたが、我が国でも国道県道は車の交通量が多く歩道のない

ところでは危険を感じながらの歩行なので、なるべく旧道を歩く。海岸沿いに自転車・遊歩道が整備された地区が各地にあつて車に気を使うことなく歩いてまことに気分が良い。歩行では「日本の海岸一周T.M.U.W.V」とプリントしたTシャツを着て歩き、地元の人との会話のきっかけになっている。西伊豆では見かけた人から通報を受けた地方紙の記者が追いかけてきて取材を受け、翌日の社会面に写真入りで載ったりした。浜名湖を一周した湖西市では後援者が仲間について、原発反対の旗振り首長の三上湖西市長から市長室で玄米

バス便の不便な過疎地では2班編成にしてレンタカーを中間地点に置いて、歩き終わった班が別の班を拾い、宿泊地に向うような便法もとっている。

歩行中の泊りはなるべく民宿にしているが、各地の新鮮な魚が食膳に並び、ビールと共に一日の疲れが癒される。翌日の行程に食堂もコンビニもない所ではおにぎりを作ってくれて、感謝していただいている。

会の目的は日本の海岸線一周だが、各地の風土・文化の理解に努め日本再発見の礎とし、歩くことで健康の維持増進を図っている。私は今年喜寿を迎えたし、更に年長の仲間もいるが、歩ける限りは頑張りたい。

消息をご存知の方
お知らせください。

2011(平成22)年3月11日の東日本大震災の影響で、避難先が不明の方がおられます。ご存知の方がおられましたら、事務局までお知らせください。

松崎奈江	医技短	10期	看護
三瓶 晃優	科技大	11期	機械
小野 好司	都立大	34期	法学
吉田 圭子	都立大	48期	経済
富澤 雅幸	都立大	48期	経済



2013年4月1日 日本橋出発の写真

HP:www.tmuwvob.com 「日本の海岸線を歩く会」のページをご覧ください。報告書では歩行の進行状況がチェックできます。

近代オリンピック創始者 「クーベルタン生誕150周年記念メダル」 受賞と感慨

飯塚 鉄雄
めしつか てつお
T. Meshizuka

東京都立大学名誉教授

1921年生まれ 東京文理科大学卒



懐かしい「TMU・首都大学東京同窓会」の皆様、私は1980年3月退職以来「母校喪失“アルママータ・ロス”」コンプレックス状態にあったように今思っています。1928年小学校入学以来の母校校舎・グラウンドは荒地で今はありませんが、創立から31年過ぎたTMU八雲キャンパスは、今でも私の心の古里なのです。同窓会臨時会報9,10号に因らずも私の「クーベルタン生誕150周年記念メダル受賞」を契機に心の古里に復帰させてくださったTMU同窓会事務局、TESS（英語研究会）他の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

メダルには次の仏語刻印があります（著者補訳）
・・・教育者 Educateur, 人道主義者 Humaniste、オリンピック大会創始者 Fondateur Del' olympisme Pierre de Coubertin Award 2013年賞メダルを日本国の飯塚鉄雄教授（博士）に下記の功績により授与する。

記

生涯にわたるオリピズムを通ずる、スポーツ・体育・スポーツ科学における「倫理、フェアプレー」への顕著な国際貢献とあります。

クーベルタンに似た

初代 JASA・JOC 嘉納治五郎会長

ギリシャのコリント地峡を越えペロポネソス半島西岸のオリンピアに、IOCの「国際オリンピック学院・IOA」があります。そこには近代オリンピックの創始者、ピエールドクーベルタンの墓碑と心臓が奉納してあります。

1966年の夏、私は「日本におけるスポーツ体育の機能的融合について；Functional and Organizational Convergence of Sports and Physical Education in Japan」と題して講義をしました。2020年の東京オリンピック組織委員長は森喜朗元総理ですが、1964年第18回東京大会組織委員長であった与謝野秀ローマ大使が私と同時に東京大会についての講義をされました。

日本体育協会初代会長であり、また日本人として最初のIOCメンバー嘉納治五郎氏は、東京高等師範学校長でもありました。このように日本のスポーツ競技とその教育はもともと組織・機能が融合して運営されていましたが、長い間にその創設理念と運営は、いつしか乖離したままになっているように思います。志し高かった嘉納治五郎は、私には風貌も身だしなみもクーベルタンを追っていたように思います。

私は戦後15年間の無条件降伏下、アメリカ他占領軍施政で青少年の倫理・道徳の乱れを予測し、それに対応すべく「日本スポーツ少年ds団」の創設に尽力し、「日本スポーツ少年団の哲理」を書きました。あれから50数年、学校教育の中さえもその倫理・道徳の乱れが増幅しつつあり憂慮しています。しかしながら、「球ころがしは戦にならぬ」と言いながら、バレーボール部主将であった私に、部活継続要請「血判リスト」を突き返した東京文理科大学配属将校M大佐の言は、今も鮮明に蘇り残念であり、再度聞きたくありません。またさらに71年前の雨の中「国立競技場」での「学徒出陣行進」を二度と繰り返したくありません。

TMU在職中の思い出

私のTMU在職31年は、教育史上初めての「卒業必須保健単位科目4単位」の充実と「外国語科目英語・兼任・人文学部教育学研究科教授兼任」でした（東京都立大学創立十周年記念 理学部研究要覧 pp.89～93）。

就任3年目のある日、初代柴田雄次総長の呼び出しで、何事かと思ひながら総長室へ出向くと、うず高く積まれた書類の陰から先生は「飯塚君貴方はどこで英語を勉強しましたか？」でした。とっさの問いに私は「トイレと通勤電車です」と答えました。「君は最高点ですよ」。それから3年有余の世界で一番貧乏な「フルブライト大学院留学生」誕生となりました。

旧名称 都立大学は消えても、英語名称TMUが残りホッと一息の私です。バレーボール部、聖書研究会、今も集うTESSの顧問など、新名称「首都大学東京」も私の心の古里、アルママータなのです。

— シリーズ —
東日本大震災
 に向き合う
同窓生の皆さん



桑畑 眞一
 くわはた しんいち
 '72年岩手県立釜石南高卒。
 '76年都立大学経済学部経済学
 科卒。
 '75年秋から三軒の書店で修業
 '77年(有)桑畑書店入社。
 '96年同社代表取締役。東日本
 大震災により会社、自宅とも
 津波で流失、震災後1ヶ
 月で借りた事務所を拠点に
 営業を再開。

戦場から帰還した勇士

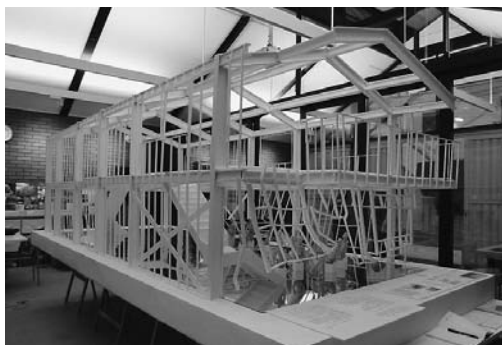
桑畑 眞一 (都24・経済)

岩手県釜石市にあった桑畑書店の二階建て店舗は、東日本大震災の津波で全壊しました。堀越しに100mくらい奥にあった大きな工場の屋根が津波の力で吹っ飛ばされ、その水圧で店舗の壁はほとんど破壊されました。建物の主体構造である太い鉄骨は奇跡的に大丈夫でしたが、細い鉄骨はほとんど見事にグニャリと曲がっている状態でした。



支援のため釜石を訪れた昭和女子大環境デザイン学科の杉浦教授は、この建物を「負傷しつつも、戦場か

上：津波の直撃を受け、鉄骨だけを残した「桑畑書店」の遺構
 下：昭和女子大学秋桜祭・伊東建築塾恵比寿スタジオに展示された「桑畑書店」の鉄骨だけ残った模型



ら帰還した勇士」のように感じたそうです。震災の記憶が失われていく中で、震災遺構の持つ意味を問うため、杉浦研究室は桑畑書店の1/6模型をつくりました。そのために研究室のメンバー8名は釜石に3泊し、建物全体の現況を測量し、図面を作り、精密な模型を作り上げました。それを2013年11月に開催された昭和女子大の大学祭「秋桜祭」で2日間展示しました。その反響が大きかったため、本年2月、伊東建築塾恵比寿スタジオで一週間展示しました。伊東豊雄氏は「建築界のノーベル賞」とも言われるブリッッカー賞を2013年3月に受賞しています。

できれば、大震災後、かさ上げが終了次第残った太い鉄骨を使い店舗を再建するため、スタッフ一同奮闘してきました。しかし、今年の3月に開店した釜石イオンに当店の2・5倍の書店ができたことなどから、再建を断念しました。現在は外商を軸とした新たな道を模索しています。

荒キャン東北応援隊 活動

今井麻菜美 (看護科3年在学)

私たち荒キャン東北応援隊(以下ATO)は、首都大学東京荒川キャンパスの学生を中心に、岩手県陸前高田市の仮設を訪問するボランティア活動を行っているサークルです。ATOは、震災があった2011

年9月に被災地を当時の学生3名が訪問したことがきっかけで「何か私たちにできることを」「出会った方のために何かしたい」という思いから始まったサークルです。「仮設住宅に住んでいる方や地域の方の孤立防止」を目標に活動を行っています。現在は、岩手県陸前高田市内の9つの仮設住宅を春夏の長期休暇と5月11月の連休を利用して1年に最大7回訪問させていただいています。活動の資金は、現在バザーを行うとともに、参加者から集金を行っています。当初活発に行われていた現地での宿泊所などのボランティアの受け入れが激減し、交通費や宿泊代、活動で使う手芸品代など、参加者一人一人の金銭面での負担が大きくなって

今井麻菜美

いまい まなみ
埼玉県立所沢北高校卒。
2012年4月首都大学東
京、健康福祉学部看護学科
入学、現在3年在学中。



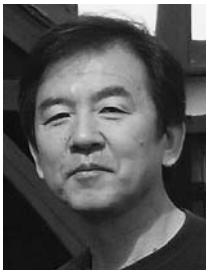
井上航

いのうえ わたる
1994年8月私立明星高校
中退。2003年3月東京都
立大学法学部政治学科修了。
2007年3月早稲田大学大
学院法務研究科修了。200
9年12月弁護士登録。200
13年8月から現職。



佐藤 俊一

さとう しゅんいち
東京教育大学付属駒場高校卒。
1973年東京都立大学工学
部建築工学科卒、1975年
同大学院工学研究科(都市計
画)修士、住宅都市整備公団
で首都圏各地のニュータウン
開発、越谷市役所、千葉市役
所で都市整備を担当、震災後
東北の災害復興を支援。



被災者に打ちとけるお話をしながらマッサージをするボランティアの学生

浪江町役場の職員として

井上 航 (都51・法・政治)

昨年8月から、福島県双葉郡浪江町役場で任期付職員として働いています。

ご存じのとおり、浪江町は全域が避難指示区域に指定されており、町民は、約2万人が福島県内52自治体と県外に分散避難を強いられています。環境も大きく変わり、手狭な応急仮設住宅等での生活を余儀なくされています。

避難生活の実情を訴えるため、浪江町は町民から委任を受けて東京電力を相手方として裁判外紛争解決手続(ADR)の申立てをしました。ADRでは、除染や避難生活の実情

に沿った賠償などを求めています。

自治体がADRの代理人となった例は過去に無く、その対応のため、また町民の避難生活の改善、復興、帰還に向けた種々の法的問題への対応のために町が弁護士を雇うことになり、採用されて福島県二本松市の役場庶務所で働いています。

業務内容はADR手続関係が主たるものですが、ADR以外の賠償問題全般、仮設住宅等の問題、福祉課題、要望・要求活動など、原発事故による様々な法的課題に各担当課と協力しながら取り組んでいます。

他の被災地同様に、所有者が100名を優に超える土地や、海外移民の子孫が相続した土地の買い上げなどの問題解決には苦闘しており、抜本的な立法解決の必要性を感じています。

浪江町は3年後(2017年)の避難指示解除を目指していますが、解除までの生活支援はもちろん、解除後の帰還支援など課題は山積しており、長期的な展望が描きにくい状況です。

そんな中で明るいニュースとして、昨年のBリーグランプリで「なみえ焼きそば」がゴールドグランプリを受賞しました。今年のBリーグランプリは浪江町との共催により郡山市で10月18・19日に開催されました。機会があれば是非「なみえ焼きそば」を食べてみてください。

震災復興に向けての取り組み

— いわき市豊間地区 (被災前620世帯、全壊家屋約400戸)

NPO法人美しい街住まい倶楽部 理事長
佐藤 俊一 (都21・院工・建築)

大震災から3年半がたとうとするのに復興の姿がなかなか見えない。復興期間5年での40事業の集中的実施の実現はおぼつかない。それ程に震災の被害が甚大であったのだが、復興事業そのものがハード中心で、事業経験の乏しい市町村に委ねられたこと、住民や地主との連携、調整が欠落していたこと等が遅れの要因とも言われる。

いわき市豊間地区では、災害公営住宅192戸が完成し避難先から半数が戻る。土地区画整理事業なども2015年度未完了の見通しである。順調に進む要因は、市、県の努力とともに、震災後いち早く復興協議会を立ち上げ、住民意見の集約と自治体との調整に取り組んできたことによる。震災前から豊間地区という統合する自治組織が存在していたことが大きい。

復興にはハードだけでなく、コミュニティや産業の再構築というソフトの戦略が必要である。復興庁も昨年度後半、ソフトの活動にも補助金を出す仕組みを用意した。「新しい東北先導モデル事業」の実施団体の

一つとして、ふるさと豊間復興協議会とそれを支援するNPO法人美しい街住まい倶楽部とが選定された。600戸のコミュニティと産業の再生を目指す。塩屋崎灯台の南側の弓なりの美しい海岸線を、多くの人の楽しみと暮らしの場とすることが目標である。

これらの活動には、高見澤邦郎名誉教授(都市計画)をはじめ、東京都立大学・大学院のOB・OG10名以上の直接的支援、その他大勢の間接的支援がある。住民の声を丁寧に聞き、纏め、そして住民や行政に伝えるコーディネートという重要な役割を担う。仮設店舗を開設して特産品づくりを進めたり、地元のどんぐりから苗木を育てたりする活動もある。これからも首都圏住民の応援が重要となる。復興交流ツアーなども企画されるので、同窓生みなさまの引き続きの応援をお願いする次第である。



同窓生による東京支援グループの主要メンバー中央が高見澤邦郎先生、左端が筆者

母校はいま

見出しの☆印は同窓会で支援している行事です。

2013年度卒業式開催

2014年3月20日(木) 千駄ヶ谷東京体育館で2013年度卒業式・修了式が行われました。今年は学部卒業生1593名、大学院卒業生78名、合計2380名が新たな門出を迎えました。来賓の舛添東京都知事は、国際化の重要性を自分の留学体験を通して語られました。また、体と心の健康が大切であり、こころの健康には、社会に出てこれまでに以上に教養を高める事が非常に大切であるなどの祝辞を述べられました。

☆成績優秀者に表彰状と

記念品を贈呈

卒業式において、成績優秀者に表彰状と記念品が黒石同窓会会長から手渡されました。今年度の成績優秀者は次の8名の方でした。

都市教養学部 人文社会系・国際文化コース 高木 梨恵子
都市教養学部 法学系・政治学コース 玉田 野々花
都市教養学部 経営学系・経営学コース 大谷 剛史
都市教養学部 理工学系・物理学コース 佐藤 真柚
都市教養学部 都市政策コース 秋山 実穂

都市教養学部 自然・文化ツアー
ズム 森本 彩夏

システムデザイン学部 インダストリアルアートコース
井上 悠

健康福祉学部 理学療法学科
齊藤 有香

2014年度入学式開催

4月8日(火) 国際フォーラムAホールにおいて、川淵理事長、原島学長を始めとして、舛添都知事、吉野都議会議員、黒石同窓会長など多数の来賓の臨席を得て、2014年度入学式が行われました。

原島学長は式辞の中で「本学はタイムスの世界大学ランキングで、日



昨年まで有楽町国際フォーラムで行われた卒業式は、今年度は千駄ヶ谷東京体育館に会場が変わりました



入学式は例年通り有楽町国際フォーラムで行われました

本国内6位にランクされ、皆さんが勉学するための環境は素晴らしいものであり、全力を尽くし勉学をして欲しい」と話されたことが印象に残りました。

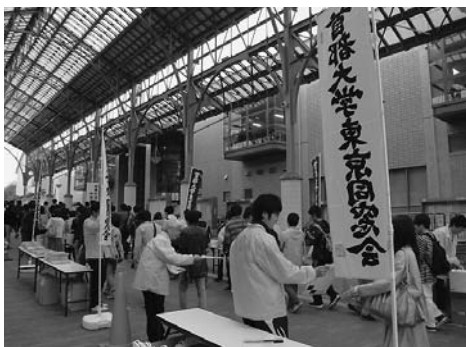
舛添東京都知事は、「①物事は総合的・俯瞰的にみる事が大切である、②すべての人は異なる考えを持つという多様性を認識しなければならぬ、多様性を認識することは、民主主義の原点である、③現代社会においては、俯瞰的なものの見方、多様性を認めるという思考の上で、国際性を得ることが必要」と説かれ、このためには、深い教養と専門知識が必須であるが、まずは語学をマスターすることを強調されました。

黒石同窓会長は、「勉学に励んでもらいたい。実社会では、『知』と

「情」の均衡が取れた人間性が求められる。常に問題意識を持ってコトに対処する能力が必要」と述べ、最後に「母校の発展へ協力」、「より一層の会員相互の親睦」、「後輩との継続を図る」を達成するため各種事業を展開している同窓会について触れ、近年注力している事業が在学生への支援活動であることを強調されました。

☆新入生に入会勧誘パンフレット「同窓会へのお誘い」を配布

南大沢キャンパスでは、4月1日(火)から7日(月)の間いろいろな新入生のための行事・説明会(英語クラス編成テスト・新入生履修ガイダンス・基礎ゼミナールガイダンス・各学部系別ガイダンス・生協へ



新入生に「同窓会入会勧誘パンフレット」を配りました

の加入手続き・サークル入部勧誘等々）が行われました。同窓会では、4月2日（水）英語クラス編成テスト後に実施される学生手帳等の配布の機会をとらえ「入会勧誘キット」（同窓会へのお誘いパンフレット、TMU会報9号、ささやかな記念品としてノート、入会金払込票）を配布しました。

世界大学ランキング

本学は更にランクアップ

2013年10月3日公表の「タイムズ世界ランキング」（Times Higher Education 2013-2014 World University Ranking）で、本学は前年度より更にランクがアップし221位（前年は266位）、国内の国公立大学の中では6位にランクされました。このランキングは、教育、研究、引用論文数、

国内順位	世界順位	大学名
1	23	東京大学
2	52	京都大学
3	125	東京工業大学
4	144	大阪大学
5	150	東北大学
6	221	首都大学東京
7	223	名古屋大学
8	283	東京医科歯科大学
9	314	筑波大学
10	340	北海道大学

産学連携、国際性の指標に基づくもので、中でも「Citation（引用論文）」部門においては、最高点である100.0をマークして、世界第1位となっていることがわかります。

同窓生による講演会を開催

理工学研究科機械工学専攻・都市教養学部機械工学コース共催で、同窓生による講演会がAV棟263号室において次のように開催されました。

2013年10月14日（月）

荏原製作所

代表取締役社長 前田東一氏

（都大院・27・工学・機械）

演題… 若き技術者に期待すること

と

内容… 企業とは何か、企業の役割、企業における技術者はどうあるべきかのお話を、技術者からの視点・経営者の立場から、多岐に亘る熱烈な講演でした。最後に後輩に期待することとして、どこにいても、どのような状況でも、コミュニケーションをとる能力（語学）と意欲を持ち、自己発信できる力をつけることが必要という課題をは提起されました。

2014年2月10日（月）
横河電機株式会社

代表取締役社長 西島剛志氏

（都大・29・理・物理）

演題… これから社会にははたか

学生の皆さんへの期待

内容… YOKOGAWAの事業

概要、会社での仕事、事業の歴史と未来、グローバル時代に求められる人材像、皆さんへのメッセージについて話され、YOKOGAWAの企業文化は素晴らしいこと、企業が何のためにあるのか等、熱のこもった講演でした。



上：前田東一氏
下：西島剛志氏

☆第62回大阪府大戦は大阪で

首都大学東京が総合優勝

本年の大阪府大戦は7月4日（金）から7月6日（日）に大阪府立大学中百舌鳥キャンパスを中心会場として開催され、17勝14敗1引き分けで本学が総合優勝を果たしました。敵地

大阪での勝利は第48回大会（2000年）以来14年ぶりの快挙です。通算成績は首都大学東京の25勝33敗3引き分け1中止となりました。



府大戦における選手宣誓風景

第33回横浜市大戦は引き分け

6月1日（日）第33回首都大学東京・横浜市立大学定期戦本大会が南大沢キャンパスで開催されました。当日は真夏のような暑さの中、卓球・柔道・剣道・空手・ラクビー・ハンドボール・バレーボール（男女）・硬式テニス（男女）・バスケットボールの11種目が争われ、5対6で惜敗しましたが、アメフト・サッカー等期間外に行われた7種目で辛勝したため総合種目では両校9勝ずつの引き分けとなりました。

南大沢キャンパス奥のスポーツゾーンには体育館・陸上競技場・野球場・テニスコート・球技場などの運動施設が配置されています。この内、球技場に一億五千万円の費用をかけて人工芝が敷設されました。人工芝選定には、川淵三郎理事長のアドバイスを頂いたこととです。この完成を記念して5月17日(土) JIFC 東京「U18」のチームと首都大学東京体育会サッカー部との試合が行われました。試合終了後は会場を生協食堂に移して、懇親会が行われ、同窓会から黒石会長がお祝いに駆けつけ乾杯の音頭をとりました。

サッカーグラウンドを人工芝に改修



チアリーディングは、両校合同で行われました

箱根駅伝に本校も出場

正月早々に行われる「箱根駅伝」に本校も参加していることをご存じですか？そうです、本戦には出られません。予選落ちとなりました。



箱根駅伝予選会に出場した陸上部の皆さん



人工芝生に改装されたサッカーグラウンド

予選会はさる10月18日に「第91回東京箱根間大学駅伝競走予選会」として行われました。首都大学東京体育会陸上競技部も参加し、出場校48校中41位でしたが、関係者・同窓生20数名の応援で健闘しました。昨年のように首都大学東京新記録とはいきませんでしたが、来年以降も同窓生の皆さんのさらなる応援を期待しています。

☆スポーツ・文化活動賞の授与式を挙げる

優れたスポーツ・文化活動に成果があがった団体・個人を表彰し、課外活動を奨励しています。本年は次の3団体に決定し、3月18日(火)授与式が行われ、黒石輯同窓会会長が出席して、受賞者に副賞が贈呈さ

れました。

① J・boy (南大沢キャンパス)

受賞理由…いかに事故を未然に防ぐかということについて意識を高め、模範的なライダーとなるべく活動した結果、「第5回南大沢署管内大学対抗二輪車安全運転競技会」(南大沢警察署主催)にて、団体優勝を収めた。

② 体育会テコンドー部 (南大沢キャンパス)

受賞理由…「第25回全日本学生テコンドー選手権大会において、2年連続の総合優勝を収めた。」

③ 体育会競技ダンス部 (南大沢キャンパス)

受賞理由…「第95回夏国公立大学学生競技ダンス選手権大会」及び「第96回冬国公立大学学生競技ダンス選手権大会」団体の部において、共に優勝という成績を収めた。



上…ドライブに使う防護用品を説明するJ・boy、中…板割りのデモをするテコンドー部、下…チャヤ・チャヤを踊る競技ダンス部

☆第6回ファイティングスピリット
賞授与式を開催

本年3月18日(火)第6回ファイ

ティングスピリット賞授与式が南大
沢キャンパス本部棟大会議室にて行
われました。ファイティングスピリ
ット賞は、高い志をもって目標を設
定して、困難に対して闘志を失わず
獨創性・獨自性を發揮して優良な学
生団体・個人を表彰し、副賞を提供
する賞です。今回の応募件数は、こ
れまで最も多い17件でした。審査会
で審査の結果、受賞は次の4件にな
りました。(①団体名、②代表者氏
名、③申請テーマ、④授賞理由)
1. ①個人、②矢野竜太郎、③磁気
共鳴医学大会、大会長賞を受賞、
④MRIによる解析の方法を研究
し、パーキンソン病に関する解析

に関して、方向性を示した。

2. ①宇宙フリーマガジン制作団体
TELSTAR、②城戸彩乃、③宇宙
開発を伝える、たった一つの学生
フリーマガジンTELSTARの発行、
④宇宙開発に関して、高校生等へ
の啓蒙に貢献している。

3. ①インダストリアルアート映像
研究室、②小倉沙羅、③アマチュ
ア大学生がプロの映像クリエイタ
ーになるまでの挑戦、④試行錯誤
しながら、映像の作成に挑戦し、
成果の発表により、クライアント
の信頼が向上し、依頼が寄せられ
るようになった。

4. ①体育会、パワーリフティング部、
②松澤孝信、③関東大会・全日本
大会における成績と諸活動、④日
本記録を達成する等、活動が顕著
である。

理工学部を有する国公立3大学で
「理工系大学協働教育コンソーシ
アムに関する基本協定」を締結

首都大学東京は、茨城大学・東京
農工大学と協働教育コンソーシアム
を構築し、ASEAN諸国との連携を
図るため、平成25年10月31日に「理
工系大学協働教育コンソーシアムに
関する基本協定」を締結しました。
これはASEANにおける開発・成長・
自然と人間社会の共存を図るための
プラットフォームを構築し、環境に
配慮できるグローバル人材の育成を
目指すものです。今後は、国公立3
大学で提携し、ASEANの大学との学
生交流の活性化に向けた協働教育プ
ログラムや単位互換を実施。農業・
工業・食糧科学並びに地域づくりを
テーマに、これらの諸課題にアプロ

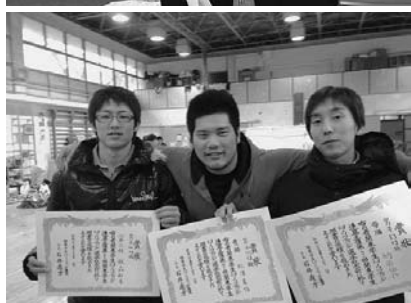
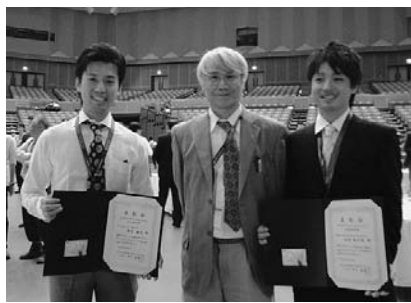
ーチする協働教育プログラムを、世
界の成長センターとして目覚ましい
発展を遂げるASEAN地域の高等教育
機関とともに進んでいきます。

「グローバル人材育成入試(AO入試)」
および「国際副専攻コース」を開始

社会のあらゆる側面でグローバル
化が急速に進行するなか、主体性を
もって国際的に活躍できる「グロー
バル人間」の育成が求められていま
す。本学では、2015年度入試か
ら国際社会で活躍する意欲のある人
を募集する「グローバル人材育成入
試(AO入試)」を実施し、国際社
会の第一線でリーダーシップを發揮し
て活躍出来るグローバルリーダーの
育成に取り組みます。「グローバル人
材育成入試」で入学する学生は、主
専攻科目の履修と並行して、海外留
学必修の新カリキュラム「国際副専
攻」の科目を履修し、主専攻の専門
知識に加えて、確かなコミュニケーション
力や、多様な文化に適応可能
な実行力を身につけます。(AO入
試は自己推薦型の入試形態。AOと
は、アドミッションオフィスの意味)。

鳥人間コンテスト 2部門で入賞

詳細は10頁に記載してあります。



上から…大会長賞を受賞した矢野竜太郎氏(左)、プレゼンテーションをする城戸彩乃氏、活動内容を説明する小倉さん(右)、表彰状を囲んで喜ぶパワーリフティング部

首都大学東京バンコク事務所を開設

この度、首都大学東京は、ASEAN地域の高等教育機関との国際連携を強化し、本学のプレゼンスを向上させることを目的として、チュラロンコン大学石油・石油化学研究科リサーチサービスセンター内にバンコク事務所を開設しました。去る4月23日に行われた開所式では、本学原島学長とチュラロンコン大学ピロム・ガモンラタナクン学長ら関係者の列席のもとテープカット等のオープニングセレモニーを行いました。

「ヒューマンメカトロニクスシステムコース」を「知能機械システムコース」に名称を変更

現在、システムデザイン学部「ヒューマンメカトロニクスシステムコース」がありますが、2015年度からコース名を「知能機械システムコース」に変更します。

国際センター事務室が国際課に変更

本年4月の改組により国際センター事務室が「国際課」（島田達之課長）に名称が変更になりました。

日野キャンパスに新実験棟を建設

日野キャンパスの一号館と二号館の間に環境に配慮した新実験棟を建設中です。2016年3月完成の予定で、完成時には、中央部分に広場を配置した一体感のある快適なキャンパスに整備されます。地上4階、地下1階、建築面積5170㎡のエコキャンパスのモデル施設として期待されています。（20頁参照）

☆第2回プロジェクト奨励賞

助成金を授与

昨年創設されたプロジェクト奨励賞の本年度の受賞者が決定し、次の5名の学生が選考され、7月31日（水）繁田副学長室において授賞式が行われました。

1. 荒キャン東北応援隊（ATO）

（代表者 佐々木啓輔 健康福祉学部理学療法学科3年）

申請テーマ…岩手県陸前高田市での仮設住宅でのボランティア活動

2. TMU☆CAN

（代表者 小林悠也 システムデザイン学部航空宇宙システム工学コース2年）

申請テーマ…超小型模型衛星

カンサットの製作活動

申請テーマ…超小型模型衛星

カンサットの製作活動

3. ツーリス

（代表者 湯舟祐樹 都市環境学部自然・文化ツーリズムコース4年）

申請テーマ…学生観光まちづくりコンテスト

4. TMU-SFC・体験！化学実験実行委員会

（代表者 安藤遼太郎 都市教養学部化学コース3年）

申請テーマ…大学祭期間中に開催する「体験！化学実験2014」及び、学外で実施する「出張！化学実験教室」

5. 個人（高井宏恵）

申請テーマ…OB・OGと在校生との交流促進（シンポジウム・交流会・Web）



プロジェクト奨励賞を勝ち取った受賞者（左から安藤遼太郎氏、高井宏恵氏、湯舟祐樹氏、小林悠也氏）

☆盛況だった青鳩祭・みやこ祭

10月18日（土）19日（日）荒川キャンパス大学祭「第30回青鳩祭」、11月2日（日）〜4日（火）南大沢キャンパス「第10回みやこ祭」が賑々しく開催されました。

青鳩祭 理学療法士、工学博士、国際マツケンジー協会認定療法士である本学健康福祉学部非常勤講師の赤羽秀徳氏により「安心のできる腰痛の見分け方」と言うテーマの講演がありました。腰痛に悩む中高年の方々から多くの質問があり、85%の腰痛は原因がわからない、治療に頼るだけではなく自ら積極的に完治にむけての意志を強固に持ち行動することが必要という事が印象に残りました。

みやこ祭 同窓会主催の講演会は、元都立大学人文科学研究科教授（現本学名誉教授）である鄭大均氏による「日韓関係 今日日本に問われていることは何か」でした。戦後の日韓関係をおおまかに四期に分けて話され、今、日本に問われていることは何かを考えさせられるものでした。



講演中の赤羽秀徳氏（上）と鄭大均氏（下）

システムデザイン学科

ヒューマンメカトロニクスシステム
コースは、2015年度より、知能機械
システムコースと名称が変更されます

- ヒューマンメカトロニクスシステムコース
人との共生を図り、社会に幸福をもたらす技術の発展を目指して
- 情報通信システムコース
知識基盤社会に相応しい、新しい技術を生み出す底力を育成
- 航空宇宙システム工学コース
最先端の知識と技術+未来志向の冒険心で航空宇宙の扉を開く
- 経営システムデザインコース
工学の視点から「経営」に変革を起こすシステム提案を目指す
- インダストリアルアートコース
「アート」—それは、新時代を築くイノベーションの原動力



新実験棟

2016年3月竣工予定で、新実験棟が建設中です。完成時には、中央部に広場を配置した快適なキャンパスに整備されます(p.19参照)。



大学会館「楓会館」(14号館)
食堂・生協購買書籍部があります。

食堂(14号館)

吹き抜けで高い天井の明るい食堂は、天気の良い日は最高のランチスポットです。



風洞実験施設(9号館)

さまざまな空力性能実験が可能な大型低速風洞。JAXAとの共同研究も進められています。

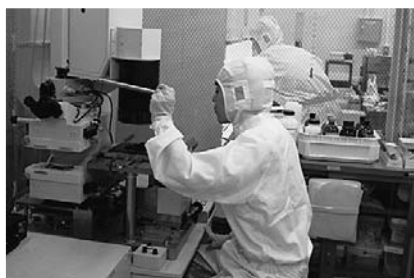


コンピューター演習室(2号館)

基礎から応用まで、様々なテーマについて、積極的に演習に取り組むことのできる環境で実践的な力を身につけます。



電子顕微鏡室(15号館)



クリーンルーム(2号館)

半導体デバイス、微細加工法の開発に必要な不可欠な極めて高い空気清浄度のクリーンルームです。

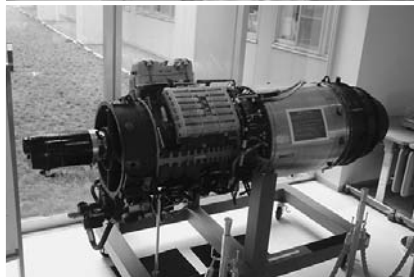


図書館(2号館B1F)

科学技術・工学関連の蔵書が多いのが特色、所蔵数は約17万冊、閲覧席136席。



体育館(13号館)



ジェットエンジン・ロケット実験施設(12号館)

ハイブリッドロケットエンジンの噴射実験を行い、燃焼温度や燃焼圧力などを測定し、性能評価を行っています。左写真は1号館玄関に展示されているジェットエンジンです。



大気環境計測のための天体ドーム(15号館)

レーザー光を使って、大気環境情報を遠隔測定するシステムの研究を行っています。



連絡バス:

日野キャンパスと南大沢キャンパス間には、授業の時間に合せて連絡バスが運行されています。

アクセス: JR中央線豊田駅(北口)から徒歩約20分。
または京王バス「平山工業団地循環」乗車(約10分)
「旭が丘中央公園」下車徒歩5分。



キャンパス 紹介

日野キャンパス

システムデザイン学部

システムデザイン学部は、システム技術を機能と感性という二つの側面から総合的に研究教育する日本でも極めてユニークな学部です。基礎学力の修得と全体を連携融合して統合的に捉えることにより、問題解決や技術革新能力を養成すると共に、人間の感性を重視する人材の教育を目指しています。5つの特徴的なコースが設置され、科学技術の急速な進歩に柔軟に対応するための基礎学力を身につけ、創造的な思考能力を養うための教育プログラムが準備されています。

JR中央線で新宿駅から30分（特別快速）、豊田駅北口から徒歩20分、工場跡が再開発された高層のマンション群やURの再開発でできたショッピングモールのある駅前付近から住宅街を抜けると近代的で瀟洒な校舎が眼に入ります。その中でも特に5本の赤い柱が印象的な2つの屋根の中央に8階建てのビルで構成される2号館はシステムデザイン学部のシンボリックな存在です。南大沢キャンパスで、基礎的な教養を得た3・4年次生と大学院生1074名がこのキャンパスで学びます。確かな知識に裏づけされた、応用性、創造性豊かな人材育成を目指した教育、高度な知的社会を目指した最先端の研究が行われています。



左端：正門を入ると来校者を迎え入れてくれるように2号館の容姿が眼に入ります。8層のモダンなビル、B1Fは図書館、5Fがコンピューター演習室、あとは、講義室・研究室です。
上：1号館は、事務室や会議室、教員居室のある棟です。また1号館玄関では研究に関連した展示が来校者を歓迎してくれます。

首都大学東京 日野キャンパス構内図





タイ・スタディツアーの参加者と村人たち

□ つなぐ研究室紹介シリーズ □

研究室の紹介を通じて
同窓生、大学、在校生をつなぐ
第3弾は社会人類学研究室

社会人類学研究室

大学院人文科学研究科社会人類学専攻
都市教養学部人文社会系・社会学コース
社会人類学分野 教授 高桑 史子

日本で最も歴史ある人類学教室

社会人類学研究室は、1949年
東京都立大学が発足して4年後の1
953年に大学院社会科学研究所に
設置された専攻です。

知的好奇心が百花繚乱の様相を呈
した当時の時代性に導かれるように、
研究室のスタッフや学生は民族学、
民俗学、社会学などの社会科学・人
文学を広く範囲に網羅しながら、海
外研究も日本研究も、ともに視野に
入れた研究を積極的に進めました。

海外での調査が容易ではなかった
当時、他の機関とも研究連携をしな
がら、日本の各地で精力的な調査を
実施し、多くの報告書・民族誌を世
に送り出しただけでなく、人類学の
理論構築にも貢献しました。たとえ
ば、年齢階梯制村落、隠居慣行など、
家族・親族研究に重要な研究枠組を
提供することになる伊豆半島や伊豆
諸島での調査、米軍支配下にあった
沖縄県での緻密な調査は、親族研究
への寄与だけでなく、その後も南西
諸島研究という多文化社会日本にお
いて新たな方向性を導くものとなり
ました。以来、日本の社会（文化）
人類学の専門家育成機関としての役
割を担っています。

現在では人類学専攻（コースや学

科）をもつ大学・大学院も増えてい
ますが、かつて人類学は、大学の教
養課程で提供されている程度で、本
格的に人類学を学べる大学は少数で
した。学部時代に人類学に関心をも
った学生は、より専門的に学ぶため
に、都立大の大学院・社会人類研究
室進学を目標としました。

そのため、本研究室には様々な大
学から、しかも出身大学には人類学
専攻がないため、様々な学部出身の
院生が集い、切磋琢磨しながら研究
に従事するという現在まで続く伝統
が早くに成立しました。ここから学
生たちは、人間の営みに関する知的
探求心をもって長期にわたる現地調
査（フィールドワーク）のために世
界各地へ飛び立っていったのです。

本研究室は1960年代から独自
の学術誌を創刊してきましたが、1
975年に院生とスタッフによる
「東京都立大学社会人類学会」が設
立され、その学術機関誌として『社
会人類学年報』が創刊されるにいた
りました。『社会人類学年報』は院
生が主体となつて編集業務が行わ
れ、毎年出版される学術誌（弘文堂
刊）であり、また「東京都立大学社
会人類学会」も院生が主催するほぼ
毎月2回のペースで開催される研究
会です。東京都立大学から首都大学
東京へと名前は変わっても、この伝
統は変わりません。

現在の社会人類学教室

2005年4月に首都大学東京が
新設され、社会人類学研究室は大学

院としては社会科学研究所から人文
科学研究科所属に変わりましたが、
先輩たちが築き上げた教育と研究の
伝統を生かしながら、新たな時代に
即した知的研究機関としての役割を
担おうとしています。

2014年現在、7名のスタッフ、
約30名の大学院生、約60名の学部生
（2年生から4年生）がともに学ん
でいます。院生の大半が日本学術振
興会の特別研究員、あるいは民間の
奨学金のお世話になりながら、留学
し、海外でフィールドワークを実施
します。創立以来50年をむかえる研
究室から総勢100名近くの社会人類学
者が輩出されましたが、先輩たちが
組織した多くの国際的な研究プロジ
ェクトや調査プロジェクトに現役院
生が参加しているのも頼もしいこと
です。

また、学部学生も異文化研究に興
味をもつて本研究室を志望したため、
在学中に留学するだけでなく、ボ
ランティアやスタディツアーなどに
参加する学生が多いのも、特徴だと
いえるでしょう。もちろん異文化研
究だけではなく、自らが生活
する日本社会を見据えて日本研究を
志向し、綿密な調査をふまえた優れ
た卒業論文も毎年発表されています。
学部授業では、必修ではありません
が、学部3年生を対象にした調査
実習授業があり、これまで伊豆大島
（鹿児島県）、佐渡島での調査
実習が行われました。数年間続いて
いる佐渡島の調査実習では、その内

容が新聞にとりあげられ、また地域
還元にも力を入れています。

本研究室の組織力と底力が発揮さ
れたのは、日本文化人類学会50周年
記念事業として2014年5月に
4日間にわたって幕張メッセ国際会
議場で開催された国際人類学民族科
学連合の国際研究大会と同時開催の
日本文化人類学研究会でした。本
研究室はこの国際大会の事務局つま
り開催校となり、1300名を越え
る参加者を国内外から迎えました。
この一大イベントに50名を越える院
生・学部生・研究生がボランティア
として参加し、前夜からメッセ近く
に泊まりこみ、早朝から深夜にまで
にわたり大会をささえてくれました。
本研究室のサイトを訪問してくだ
さい。院生たちが世界各地で撮影し
た写真のスライドショーも是非楽し
んでください。（文責 高桑）
<http://sites.google.com/site/www.shain/>



島の伝統についてお話をうかがう調査実習授業（鹿児島）

□ 大学事務局からのご報告 □

□ 首都大学東京初の海外拠点バンコクに開設 □

ASEAN地域の高等教育機関等との国際連携を強化し、本学のプレゼンスを向上させることを目指して、2014年4月に首都大学東京バンコク事務所を開設しました。

事務所は、協定校であるチュラロンコン大学の石油・石油化学研究科リサーチサービスセンター内に設置しました。同大学は、タイで最古の名門総合大学であり、共同研究の実施等、本学との交流活動を活発に行っています。

ASEANは、高い経済発展を続けており、世界の成長センターの一つとして注目されています。その主要都市のひとつであるバンコクの中核部という立地を最大限に活かす、タイをはじめとするASEAN地域の高等教育機関等との協働教育・共同研究・産学連携活動や、優秀な留学生の獲得等に向けた広報等、大学の国際競争力強化のための取組を積極的に推進していきます。

□ フロンティア研究棟の新設 □

2014年4月、南大沢キャンパスに「フロンティア研究棟」を開設しました。この研究棟は、世界的にもユニークな金の触媒機能に関する

研究を進める「金の化学研究センター」の基幹施設であり、金触媒の産業利用推進や次世代の研究者人材の養成などを目的としています。

フロンティア研究棟が金の化学研究の国際的な研究拠点となり、世界における本学のプレゼンスがより一層高まることが期待されます。

□ 株式会社新銀行東京と産学連携推進に関する協力協定を締結 □

2014年5月30日、株式会社新銀行東京（代表取締役社長：寺井 宏隆）と「産学連携推進に関する協力協定」を、南大沢キャンパスにて締結しました。

本学にとっては、大学の研究成果を還元できる企業と連携するため、新銀行東京にとっては、取引先である東京都の中小企業に対して、技術的な課題や製品開発における課題解決などを支援するため、お互いの目的が一致することから、本協定を締結しました。

これまでも、新銀行東京の紹介を通じて本学と新銀行東京の融資先企業が共同研究を実施した事例もあり、本協定の締結により、このような共同研究による産学連携の実績を更にすることを目指します。



川淵理事長（右）と寺井社長（左）

□ 2014年4月の入学者概況 □

合格者・入学者数は下表のとおりです。

□ 2015年度からグローバル人材育成入試（AO入試）を導入 □

社会のあらゆる側面でグローバル化が急速に進行するなか、主体性をもって国際的に活躍できる「グローバル人材」の育成が求められています。

本学では、2015年度入試から、国際社会で活躍する意欲のある者を募集する「グローバル人材育成入試（AO入試）」を実施し、国際社会の第一線でリーダーシップを発揮して活躍できるグローバルリーダーの育成に取り組みます。

「グローバル人材育成入試」で入

合計	健康福祉学部						システムデザイン学部						都市環境学部						都市教養学部										学科・系・コース
	健康福祉学部						システムデザイン学部						都市環境学部						都市教養学部										
	小計	放射線学科	作業療法学科	理学療法学科	看護学	看護学	小計	システムデザイン学	経営システムデザイン学	航空宇宙システム学	情報通信システム学	ヒューマン・コンピュータ・システム学	小計	分子応用化学コース	建築都市コース	都市基盤環境コース	地理環境コース	小計	小計	機械工学コース	電気電子コース	生命科学コース	化学コース	物理学コース	数理学コース	経営学	法学	人文・社会学	
1,719	162	32	35	31	64	268	55	55	46	48	64	205	75	53	50	27	1,084	247	43	42	32	45	45	40	246	364	227	合格者	
1,637	202	42	38	42	80	278	63	50	51	53	61	221	65	66	57	33	936	283	44	44	52	47	50	46	243	207	203	入学者	

学する学生は、主専攻科目の履修と並行して、1年間または1学期間の海外留学が必須の新カリキュラム「国際副専攻」の科目を履修し、主専攻の専門知識に加えて、確かなコミュニケーション力や、多様な文化に適応可能な実行力を身につけます。

2015年度入試では、都市教養学部の人文・社会系と経営学系、都市環境学部の4コース（地理環境・都市基盤環境・建築都市・分子応用化学）で募集します。

留学先は、交換留学協定大学ほか、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ドイツ、フランス、スペイン、フィンランド、トルコ、タイ、マレーシア、韓国、台湾などを予定しています。

□ 2014年度 教員免許状 更新講習の開設結果報告 □

8月9日（土）～14日（木）まで、教員免許状更新講習を実施いたしました。

今年は、必修領域1講座、選択領域9講座を開設し、教員免許状を有する多くの方々が東京都内外から受講されました。

次年度も8月に更新講習を開設する予定です。卒業生で受講対象者になられる方は、是非、懐かしい母校で更新講習を受講してみませんか。

2014年度更新講座開設結果報告

月 日	曜	領域区分	講 習 の 名 称	講習時間	受講/定員
8月 9日 8月10日	土 日	必 修	教育の最新事情	12時間	38/40名
8月11日	月	選択1	数学的な考え方とその応用	6時間	9/20名
		選択2	New Approaches to English Teaching	6時間	10/20名
		選択3	授業でのICTとマルチメディアの活用	6時間	18/20名
8月12日	火	選択4	物理における最新の研究と物理の授業法	6時間	10/20名
		選択5	多文化・多民族共生と教育	6時間	9/20名
8月13日	水	選択6	高校生物：新課程で何を重点に教えるか	6時間	14/20名
		選択7	歴史学習における教科書の使用	6時間	8/20名
8月14日	木	選択8	考える力をつける対話授業法：生物を中心に	6時間	15/20名
		選択9	地理の新しい見方・考え方	6時間	8/20名

2013年度退職された教授・准教授 (2014.03.31付)

学 部 等	学 科 ・ コース	氏 名	順 位
都市教養学部	社会学 法律学 政治学	稲葉 昭英	教授
		大橋 亮弘	教授
	今井 健太郎	教授	
	経営学・経済学 化学	前田 晋	准教授
		加藤 晋渉	准教授
都市環境学部	分子応用化学	西尾 和之	准教授
健康福祉学部	看護	加藤 星花	准教授
国際センター		海野 るみ	准教授



必修領域「教育の最新事情」講習風景

□ 生命科学コース英語課程新設 □

生命科学コースでは、2015年度より卒業に必要な124単位分以上の授業を英語で提供し、英語での授業のみを選択して卒業することを可能にします。

この英語課程は、基本的に従来の日本語課程と同様な内容を英語で提供します。また、卒業に必要な単位には全学科目も含まれるので、全学の多くの方々のご理解・ご協力の下に実施します。5年間の教員追加配置・予算措置もいただいています。

この事業を通して、日本人卒業生が、様々な場面で国際的に活躍できるように、教育の質を高めます。また、漢字圏以外からの留学生や帰国生等を受け入れやすくなり、多様な文化的背景をもつ学生達とともに学びともに成長する環境を作り出すことを目指します。

本年度入学試験（2015年度入学者選抜試験）から、学生を募集しております。同窓会の皆様におかれましては、本事業へのご理解ご協力をお願いいたしますとともに、生命科学コース英語課程にふさわしい方がおられましたら、是非とも、本課程のことをお伝え下さい。英語課程と入学試験については、http://www.biolog.ac.jp/global/index_jp.htmlをご覧ください。お問い合わせは、bioeg@biol.se.tnu.ac.jpにてお願いいたします。

首都大学東京での研究支援活動と

産学公連携の取組みについて

首都大学東京 総合研究推進機構
副機構長 研究推進担当部長

桜井 政考

はじめまして、首都大学東京（以下「首都大」という）で、総合研究推進機構の副機構長と産学公連携センター事務長をしております桜井と申します。

今回は、首都大における研究支援と産学公連携推進について、最新事情をお届けします。

2005年に「大都市における人間社会の理想像の追求」を使命とし、首都大が旧都立大を含めた都立の大学等から生まれ変わって9年が経ちました。この9年間で首都大も様々な面で大きく成長しました。研究面では、Times Higher Educationランキングで国内7位の地位を築き、特に、物理、化学、生命科学、工学の分野で国際的に大きな研究業績をあげています。教育面でも、この5年で海外からの留学生の数は倍増し、競合する国内主要大学との差を急速に縮めています。

これらの変革の中で、今回は研究支援活動が研究者の社会貢献にどのような効果を与えているか、についてご紹介したいと思います。

首都大の産学公連携センターは2005年に設置され、東京都との連

携を軸に、研究者の研究成果を社会に還元すべく活動を始めました。しかし、長い年月の間、固定化したメンバーと高齢化による活動マンネリ化により、少しずつ研究者や世の中のニーズとの乖離が生まれ、活動が停滞し始めたため、2011年度より、40代の民間企業のコサルタン・金融機関出身者、産学連携プロジェクト経験者中途採用することで組織を一新し、今年度からは、首都大に新しい部局として総合研究推進機構を設置し、教学組織と事務組織が一体となり、研究戦略立案から研究支援までワンストップで行うことができるようになりました。

その結果、産学連携につながるコ・ディネーター等専門職が研究者に関与する割合は以前の10倍となり、知財管理・技術移転の高度化も図れ、技術移転収入は医学部を持たない総合大学としては国内トップ水準（12年度実績、14年度見込）となりました。

東京都との連携活動の発展という視点で、これまで年に一回、都庁舎内で実施していた首都大研究成果発表会（「施策提案発表会」）に加え、首都大版ギャップファンドと呼べる「スタートアップ調査制度」を新設し、東京都への施策提案に向けたプレ研究費支援を開始、都派遣職員の連携

担当チームとともに、フォロアップの徹底も図っています。

その成果例としては、東日本震災に伴う福島原発事故後の放射線汚染問題に関し、福島県林業支援のソリューション提供という形で具現化しています（詳細は、産学公連携センターHP掲載の「TMU-Beyond創刊号」をご参照ください）。

また、最近の代表的なプロジェクトとして、東京都の首都直下型地震に備えるための研究プロジェクト「総合防災対策研究プロジェクト」と、来るべき2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた全学的研究プロジェクト「2020未来社会研究プロジェクト」を、学部横断的に進めています。

元来、中規模大学として異なる研究分野の研究者が連携しやすい環境にある、というのが首都大の強みの一つですが、「総合防災対策研究プロジェクト」では、全学部26人の研究者を巻き込んでプロジェクトをスタートしました。

学内の研究グループ組成、学内予算はじめリソース確保、東京都との人的・予算的交流など、研究支援に携わる専門職が何ヶ月もかけて学内外で精力的に働きかけを行いました。当該プロジェクトは、来年3月に2年間のプロジェクト報告会を行って一旦終了しますが、各研究分野での、東京都や企業との発展的な関係構築を目指していきます。

「2020未来社会研究プロジェクト」

では、スマートコミュニケーション、防災、環境、地域連携などの視点で研究プロジェクトを学内公募し、2020東京オリンピック・パラリンピック開催時に社会的に役立つ実践的な研究、さらにはポストオリンピックの未来社会を見据えた将来に向けた研究を進めていく予定です。

メガシティ東京の課題解決が首都大の他者が真似できない能力の一つであり、この機会に首都大の存在感を学内外にアピールするのも研究支援組織の重要なミッションです。

最後に、現在の首都大の産学連携は、強力なパートナーシップにより成り立っています。2011年に多摩信用金庫と連携協定を締結し、産学連携人材をアウトで受入れ、2012年には東京中小企業投資育成、2014年には新銀行東京と連携協定を拡大し、金融機関の持つリアルな課題解決に首都大研究者の知恵を活用してもらうスタイルを確立しました。産学連携というのは、一般的に大企業中心と考えられがちですが、首都大では、多摩地区の優良中小企業との連携の裾野を着実に拡大しています。

是非、私どもも総合研究推進機構、産学公連携センターにお気軽にお声かけください。きっと、新たな首都大の価値を発見し、企業や地域、行政のお役に立つ研究成果の社会還元が果たせると思います。

支部だより

北海道支部

事務局長・増川 仁
(都22・工・機械)

第10回(2013年)首都大学東京
同窓会北海道支部総会及び懇親会

2013年11月30日、例年通りホテルKKR札幌において第10回首都大学東京同窓会北海道支部総会を開催しました。13年度の二本会、ゴルフみやこ会等の活動報告、会計報告等を行い、14年度の活動計画案の承認を得ました。

新年度も二本会・4回、ゴルフみやこ会・3回、幹事会・1回の活動予定となっています。総会終了後、



2014年北海道支部総会

25名の参加を得て懇親会を開催し、本部同窓会会長代行・加藤允子氏を来賓としてお迎えし、楽しい一時を過ごしました。会の益々の発展を祈念し、積極的に新入会員を勧誘していこうということで、各種情報交換を行いました。

関西支部

事務局長・根津 嗣郎
(都32・工・建築)

2014年・首都大学東京同窓会
「関西支部の集い」

第21回「関西支部の集い」は、3月8日(土)に昨年に引き続き、大阪・本町にある「日本綿業会館」で、来賓として本部から黒石 輯会長、首都大学東京の川淵三郎理事長をお迎えし、32名の参加により開催しました。

開会に先立ち、会場である重要文化財の「日本綿業会館」を見学するオプションに12名が参加し、大阪船場の過去の繊維業界の繁栄の様を豪華な建築美を通して実感して頂きました。

「関西支部の集い」は、塩見幹事(48期)の司会で16時の開会に先立ち、3期卒の前会長近藤忠孝氏を追悼する黙祷を捧げました。

関西支部の梅村会長(10期)の挨拶に続き、来賓の本部の黒石会長か

らご挨拶をいただき、つづいて、川淵理事長の音頭で乾杯を行いました。ひと時の宴と歓談の後、支部総会を行いました。議題は収支決算報告の件で、事務局長 根津(32期)が報告し、全会一致で承認されました。その後、懇談会に入り、川淵理事長から東京事情や、サッカーW杯についてのウイットに富んだスピーチを頂戴し、支部の集いは大いに盛り上がりました。最後に新規参加者久しぶりに参加された方からスピーチを時間までいただき、記念写真を撮って閉会としました。

関西支部の会員は名簿記載数953名となり、過去最高の人数になりましたが、葉書やメールで「関西支部の集い」開催の連絡を行っても、不参加の返信もいただけない方が多く、意思確認すら苦慮するところでした。せめて、なんらかの連絡をいただければありがたいと思います。また、若い方や都立大以外の卒業生の参加が少なく、会の存続のためにも多くの参加を望んでいます。ご参加いただき、「つながり」を深めたいと思っていますので気軽にお願いいたします。関西在住の皆様、来年も春には「関西支部の集い」を開きますので、是非参加を予定して下さい。また案内経費節約のため同窓会宛にメールの登録をよろしく願います。

連絡先Email: nezun202@sage.ocn.ne.jp

2015年度第22回関西支部の集い
開催日時 2015年5月中旬の
土曜日 17時開会予定

開催場所 日本綿業会館

大阪市中央区備後町2丁目5-8

会費 7000円

開催時期を変更した理由

例年3月下旬に開催していましたが、より多くの若い同窓生の参加促進を図りたいと考え、多用な年度末を避けて、GW後の5月の土曜日に開催することに変更する。

日本綿業会館の見学も予定。

詳細については3月下旬にご連絡致します。

連絡先 関西支部事務局 根津嗣郎

〒541-0051 大阪市中央区備後町

2-15-8 6階

Tel.06-6233-8700 Fax.06-6233-8710



2014年関西支部総会

九州支部

九州支部総会開催

九州支部の総会は、新しく就任された黒石 輯会長を迎え、開催しました。今回の参加者は、下記のとおりで、旧交を温め、最後に、来年の再会を期して、学友歌を歌って解散いたしました。

今回は、都立大以外の同窓生の皆様もぜひ、ご参加いただきたいと思っております。

開催日時 2014年2月26日

(日) 13:00～16:00

場所 レストラン 桃林

(福岡市中央区大名)

参加者

同窓会長 黒石 輯(都14・法経・経済)
 会長 田沢 明(都5・人文・法学)
 副会長 川路 宏(都5・工学・機械)
 以下九州支部会員14名
 大木 正之(都3・工学・機械)
 加藤 貞夫(都7・工学・建築)
 伊藤 興和(都11・法経・経済)
 福地 庸吉(都13・法経・経済)
 渡部 登(都20・理学・生物)
 平原 純夫(都23・経済・経済)
 小川 省三(都26・理学・物理)
 大藤 和秀(都28・経済・経済)
 甲斐田清史(都42・法学・政治)
 山崎喜代子(都17・理学・生物)
 吉田 晃(都15・理学・物理)
 (3期、42期大分県1名、佐賀県1名、福岡県12名)



2014年九州支部総会

八雲クラブ新年会

◆2015年1月11日(日)午後3時より6時まで、渋谷八雲クラブにて恒例の新年会を開催します。

◆首都大学東京「美酒倶楽部」による飲み放題カクテルコーナーがオープン。お酒の美味しさを極限まで引き出す手法としてのカクテルを存分にお楽しみください。同時に、ユーラシア大陸の徒歩横断を達成したワシントンフォーゲル部OB会による写真展「日本の海岸線を歩く」を開催。さらに別のサプライズも準備中。
 ◆予約・申し込み不要。八雲クラブ会員は参加費無料、会員外の同窓生は@1000円で参加自由です。

八雲クラブで会いましょう

丑山佐千男(都22・政治)

かつての八雲会(東京都立大学同窓会)が所有していた施設が「八雲クラブ」です。八雲の名称は引き継がれ、クラブ運営は首都大学東京同窓会・八雲クラブ委員会が担当しています。現在運営委員は同窓会理事4名を含めて15名の委員で構成され、会員へのサービスに努めています。

八雲クラブの立地はJR渋谷駅から徒歩5分、東急ハンズの裏側の渋谷ニューコーポラスの10階と11階。40名収容可能なメインルーム(10階)と10名収容可能なサブルーム(11階)。現在約350名の会員に、この施設を自由に利用していただいています。

また、毎月第二水曜日には、まもなく340回目を迎える八雲サロンが定期的に開かれ、会員でなくても、予約なしで自由に参加ができます。

2014年に開催されたサロンとゲストは、1月は新年会。カクテルパーティと根谷崎武彦氏の写真展「スイス秋景」。2月以降は、「運転士から見たJR山手線」(上土井泰子氏・52・仏文)、「新しい地域ものづくり支援」(河口修氏・20・電気院)、「現役大学生の見たアジアの姿」(堀内顕秀氏・首都大3年)、「シベリア ツンドラの湖で幻の岩魚を釣る」(服部文祥氏・42・仏文)、「企



大阪府立大学・堀江珠喜先生を囲んで

業の無国籍化と個人の差別化」(久崎力氏・9・電気)、「草食系男子と肉食系悪女」(堀江珠喜氏・大阪府立大)、「私たちが生きてきた時代の災害と防災」(小川雄二郎氏・16・土木)……と友好校大阪府立大学同窓会との交流も盛んです。

八雲クラブは、ゼミの同窓会、サークルの同窓会、理事会、各委員会、囲碁の会、読書会、絵の会、ユーモアスピーチの会、俳句の会……などに活用されています。八雲クラブの詳しい紹介と入会方法、八雲サロンの予告などは、首都大学東京同窓会HPに載っています。ぜひいちど渋谷の八雲クラブにお出かけください。見学は自由です。八雲クラブで、みなさんとの新しい出会いが得られることを願っております。

8年目の寄付講義

毎年、「産業と企業」のテーマのもとに開講されている同窓会寄付講義は、昨年度（2013年度後期）は、準必須の講義と重なり、約100名学生が登録しました。

講師の方々の尽力により、学生の評価は、「視野が広がった」、「都市開発の講義では、立場の違いのある方々の話があつて、有意義であつた」などのポジティブなものでしたが、一方「レポートがきつかつた」などの課題も指摘されました。

昨年から大学のカリキュラムの見直しがあり、従来、寄付講義が属していた「都市教養プログラム」が、専門科目への橋渡しをするプログラムである「基礎科目群」の授業となりました。

また、受講学生が負担と感じていたレポートの字数も1000字程度と短くなりました。

学生が積極的に受講し、より深い思索と理解が期待されます。

実施に当たっては、八雲同友会とNPO法人MeCの協力により、OBの中から会社経営に豊富な経験を持ち、産業の発展に貢献した方、あるいは、ご自身の関わってこられた事業についての話など、以下の方々に講師を依頼しました。

今回の講義では、昨年に引き続き、都市開発に関するテーマで3名の方々の講義があり、講師の所属する企業の立場による「見方、考え方」

の相違を聞くことができます。

同窓生の皆さま、ご遠慮なく講義を聴講にお出かけください。

講義は6号館110番教室で、3時限（午後1時）開講です。

第一部 講義の講師および日程

2014年10月9日(木)〔サービス事務代行〕

吉田 雅俊 (都23・工・機械)

(株)日税ビジネスサービス代表取締役社長

〔新規事業開発と中小企業〕

2014年10月16日(木)

久崎 力 (都9・工・電気)

日本経営士協会相談役 元電気通信大学特任講師 元NECAmerica Senior Vice President 元アンテン(株)常務取締役

「企業の無国籍化、個人の差別化」電気メーカー勤務と海外駐在の経験から学ぶもの」

2014年10月23日(木)〔建設／都市開発〕

相澤 幸寛 (都21・工・建築)

(株)大林組 執行役員 開発事業本部副部長

〔ゼネコンにおける都市開発事業〕

2014年10月30日(木)〔不動産〕

谷澤 淳一 (都29・経済・経済)

三菱地所(株)執行役員 経営企画部長

〔丸の内の街づくり〕

2014年11月6日(木)〔銀行〕

中条 功 (都23・経済・経済)

(株)長野銀行 代表取締役頭取

2014年11月13日(木)

(建築設計・監理)コンサルティンギンテリアデザイン

豊泉 正雄 (都22・工・建築工学)

(株)メック・デザイン・インターナショナル 代表取締役社長 三菱地所(株)顧問

2015年1月8日(木)〔メディア〕

友部 孝次 (都23・法・政治)

(株)テレビ愛知 企画代表取締役社長、前テレビ愛知(株)取締役常務執行役員、元日経広告研究所専務理事、元(株)日本経済新聞社 広告局総務

〔メディアと広告〕

第二部 講義の講師および日程

2014年11月20日(木)

朝倉 敦子 (都43・法・法律)

東京急行電鉄(株)人材開発部課長 前二子玉川ライズ運営部課長

〔国内最大規模の民間街づくり事業と今後の展開〕

2014年11月27日(木)

伊東 正展 (都9・理・物理)

アイ電子代表取締役社長

〔通信の世界を変えた化合物半導体と取組んで40年〕

2014年12月4日(木)

大島 英彦 (都37・工・工化)

(株)テルモ 開発本部グループ長

2014年12月11日(木)

水野 孝彦 (都11・理・物理)

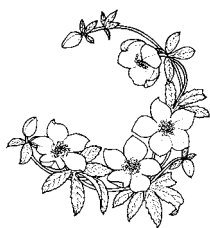
学校法人水野学園理事長

2014年12月18日(木)

石館 陸男 (都12・工・機械)

石館アソシエイツ代表

〔商社の国際ビジネスの経験から〕



司法試験74校中14位で

合格率は22.9%

法科大学院修了者を対象とした2014年の司法試験の合格者が9月11日に発表された。

全体の合格率は過去最低で22.5%でしたが、首都大学東京は96名が受験し22名が合格した。全体が低調な中で、なんとか平均合格率は上回ったが、今後より一層の奮起を期待したい。

■ 同窓会事務局からのお知らせ ■

□ 会費の払込みと住所・勤務先等の変更届のお願い □

維持会費は、同窓会活動にとって、貴重な財源です。

様々な活動の基になる同窓会名簿の整備、現役学生への支援、会報の発行、各種行事の実施等の活動資金となります。

□ 維持会費は、年額3千円です。

□ 終身会費制度もあります。3万円の一括納入で以降、年会費の納入は不要です。

会費は、本会報に同封の「払込取扱票」（赤色で印刷された用紙）による納入をお願いします。払込は、郵便局かコンビニでできます。

利用可能なコンビニは、「払込取扱票」の裏面に掲載してあります。

住所などに変更があった場合は「住所等変更届」を使用し、該当欄各項目を記載し、ファックスか郵便でご一報ください。

連絡先

首都大学東京同窓会事務局

〒192-0364 八王子市南大沢1-1

首都大学東京内

電話&ファックス 042-670-7702

e-mail: tmu-al@tmu.ac.jp

担当 小松・杉村

【参考】

首都大学東京同窓会規約

（会員の責務）

第6条 会員は、本会の事業に積極

的に参加し、会費等の納入を果たし、住所、氏名及び勤務先の変更があったときは、速やかに変更事項を本会事務局に届け出るものとする。

（入会金）

第7条 本会の入会金は、2万円とし、大学の学部又は大学院に入学したときに納付するものとする。

（会費）

第8条 本会の会費年額は、次のとおりとする。

1. 正会員 3千円 ただし3万円を一括納付する事により以後、年会費を納付することなく、終身会員とすることが出来る。

2. 特別会員 正会員に準ずる。

3. 賛助会員 1口5万円

4. 名誉会員 納付を要しない。

（入会金・会費の不返還）

第9条 既納入会金、会費及びその他の拠出金は、これを返還しないものとする。

□ 会員の皆様へ

『会費納入状況欄』のご説明 □

毎回の会報に同封の【年会費納入状況】欄についてのご説明。

赤字で印刷された同封の「会員の皆様へ」をご覧ください。

(1) 2005年10月発行のTMU第1号までは、維持会費の払込は、「郵便振替払込票」の払込金額記入欄に、本人自身で、納入金額を記載してい

ただいていました。2006年5月からは、払込の利便性を考え、従来の郵便振込に加えてコンビニでも払込できるようにいたしました。

コンビニ利用の場合の、システム上の制約から、年会費3,000円と終身会費30,000円を払込票の金額欄に併記印刷することになりました。

(2) 同窓会の年会費の納入は、年度

（4月～3月）により管理しています。

会報は、年2回、5月と11月に発行しています。「会員の皆様へ」のお願いと会費払込票は会報に同封させていただきます。

(3) 納入状況の表示について

△ 納入状況については、お支払いを頂いている方については、年度ごとに払込票に「納入済」を印字しております。

□ 毎年度3月31日現在、および9月30日現在の納入状況を記載させていただきます。

(4) 次期以降の維持会費を余分に お支払いいただいた方については、会員管理台帳上、「預り金」として、管理いたします。

(5) 同一年度内に重複（2回）して払込をされた方については、当年度を含めて4年以内に未納の年度がある場合には、その年度分に充当させていただきます。また、未納がない場合には、「預り金」として管理して、次年度になった時点で、

当年度分として、入金処理をさせていただきます。

(6) 「個人情報保護」の観点から、払込票には住所を記載せず、***のように表示しております。

□ 会報送付先についてのお知らせ □

会報は、皆様からお届けいただいている現住所のほか、指定された留守宅、実家、勤務先にお送りしております。

お送りした会報は毎回、発送部数の約2%、600部前後が転居先不明で戻ってきます。送付先に変更があった時は、かならず同封の送付先変更届の提出をお願いします。

送付先変更届けは、ファックスで送っていただければ結構です。ファックス送信の際、FAX送信面の裏表を、確認してお送りくださるようお願いいたします。毎回、10名程度の方から白紙のファックスが届き、住所を確認できません。

□ 維持寄付等について □

新しい寄付制度による「維持寄付」については、皆様のご協力により、第9期で93名の皆様から、60万円弱のご寄付を頂きました。

第9期の収支の改善に、大きな力となりました。大変ありがたく、感謝申し上げます。

第10期におきましても、75名を超える皆様方のご協力をいただき、感

謝いたしております。

なお、現役学生に対する支援は、同窓会としても、積極的に行うことを目的にしておりますので、目的寄付につきましてはさらなるご協力を願います。

学生への主な支援策
(総額300万円～350万円)

- 1 大学祭等学生の課外活動への支援(70万円)
- 2 対大阪府立大学総合競技大会への支援(60万円)
- 3 学生の自主的な活動への支援(80万円)
- 4 成績優秀者の表彰(50万円)
- 5 寄付講義に関する経費(40万円)

□同窓会行事報告と予定□

2014年

- 10月15日(水)第72回理事会
- 10月下旬 会計監査
- 10月18日(土)～19日(日)荒川キャンパス大学祭「第30回青鳩祭」
- 11月2日(日)～4日(火)南大沢キャンパス大学祭「第10回みやこ祭」
- 11月19日(水)第73回理事会
- 12月14日(日)第11回評議員会
- 2015年
- 1月21日(水)第74回理事会
- 2月1日(日)第11回総会・新年会
- 於 信濃町 明治記念館
- 3月18日(水)第75回理事会
- 5月20日(水)第76回理事会

7月15日(水)第77回理事会
9月16日(水)第78回理事会

□叙勲等を受けられた同窓会会員の皆様

受章おめでとうございます□

2013年秋

紫綬褒章

小松 和彦氏 (都立大学 第18回卒 大学院 文化人類学)

2014年春

瑞宝中綬章

佐藤 泰夫氏 (都立大学 第11回卒 大学院 土木研究科)

西村 尚氏 (都立大学 第11回卒 工学部 機械工学科)

松浦 知彦氏 (都立大学 第15回卒 経済学部 経済学科)

2014年9月

死亡叙勲 從四位 瑞宝中綬章
故桑澤 清明氏 (都立大学名誉教授 理学部)

(*褒章など受章された会員をご存知の方は、ご連絡ください。)

□同窓会の学生への支援活動□

- (1) ファイティンクスピリット賞
2014年3月18日
- (2) プロジェクト奨励賞
2014年7月31日 4件に授与
- (3) 課外活動への支援
大学祭
・2013年10月19日～20日
第29回青鳩祭(荒川キャンパス)

・2013年11月3日～5日
第9回みやこ祭

実行委員会等(60万円)

大阪府立大学総合競技大会(62回)
・2014年7月4日～5日

大阪府立大学で開催

体育会本部(110万円)

首都大学東京17勝4敗1引分
(通算25勝33敗3引分1中止)

成績優秀者表彰

2014年9月25日

成績優秀者表彰を受けた学生に、
同窓会より記念品を贈呈(150名)

2014年3月18日

スポーツ・文化活動賞
3団体に対し9万円を副賞として贈呈

就職活動への支援

・OBによる就職活動相談
(キャリア支援課)

2名の同窓生を派遣

・同窓生就職先名簿の閲覧(同窓会事務室)

□大学行事予定□

- 入試関係
2015年1月17日(土)～18日(日)
センター試験
- 2月25日(水)～26日(木)前期日程
3月12日(木)後期日程
- 卒業式(2014年度学位授与式)
2015年3月20日(金)
東京国際フォーラム

同窓会は、成績優秀者に記念品を贈呈する予定(8名)。

入学式(2015年度)

2015年4月5日(日)

東京国際フォーラム
第63回対大阪府立大学総合競技大会
2015年7月3日(金)～5日(日)

(予定)

於 首都大学東京

「表紙のことば」

エギーユ・ドゥ・ミナイ尖峰群

安部 美津子(都3・理・化学)

学生時代に端を発した東京都立大学理学部山の会は、メンバーの多くが還暦を迎えた1997年から「海外トレッキング」に変身、ヨーロッパを中心に遠征を続けた。たまたま山を描きたいとの思いをメンバーの一人に話したことから、2000年以降、この会のメンバーとして、「お絵かき可能」の場所に同行できることとなり、2012年の最終回までの12回参加の幸運に恵まれた。

2012年6月29日から7月8日にかけてのチューリッヒ→グリンデンワールド→ツェルマット→シャモニーの移動の間のゴンドラによるエギーユ・ドゥ・ミナイ*往復に際し、この景観に出会った。迷うことなく帰宅後油彩として描きあげた。

* AGUILLE DU MIDI

同窓会規約を改正します

規約改正の概要

首都大学東京同窓会（以下「同窓会」という。）は、2004年（平成16年）11月16日に設立総会を開催し、以来、10年が過ぎました。

この度、理事会では、総会・新年会・評議員会の活性化について、あり方等を検討するための「特別委員会」を設置し、検討した結果、規約第32条の会計年度の期間を改正することが必要であるとの結論に達しました。

また、同窓会を管理・運営してゆくための規約に、実際の運営と合わなくなってきている条文、疑問が生じる条文等が散見されるようになってまいりました。

出来るだけ、判りやすい条文にする必要があると判断し、総務委員会で検討いたしました。

1. 改正の必要な条文についての説明

- (1) 第7条 入会金については、学部から院に入学した者についての規定がなく、現状は、徴収していないので、入会金については、必要ない旨を明示する。
- (2) 第8条 学部から院へ入学した者についての年会費の免除の規定がないので、年会費の納入を請求しているが、学部から院に入学した者についても、会費の免除を明示する。
- (3) 第14条 評議員については、現状の選任方法を追認し明示する。

監事については、首都大学東京卒業生の会員が増加するので、1名増員して、首都大学東京卒業の会員を充てることを可能にする。

理事の選任については、理事会の下に「選挙管理委員

会」を設置して行うことを明示し、「選挙管理委員会」規程を別に定める。

- (4) 第16条 「規定」を「事項」へと「役員」を「理事」へと文言のみ改める。
- (5) 第23条 評議員会における議決事項に、「会長及び副会長並びに理事の選任に関する事項」及び「監事の選任に関する事項」がないので、明示する。
- (6) 第32条 会計年度の改正については、総会への会員の参加者が少なく、開催時期を大学行事に合わせる等、柔軟に開催時期を決められるように期間を改正する。詳細は下記「同窓会規約第32条の改正について」を参照。

今回の改正に関連して、付則を設ける。

以上6項目の改正を検討し、理事会の決定を受けて、成案が出来ましたので、2014年（平成26年）12月4日（木）に開催される評議員会で審議をお願いすることになります。

2. 改正を予定する条文の新旧対照表（p.33参照）

今回の改訂に際し、表中の付則を設けます。

3. ご意見・ご質問について

メール・Fax・電話・文書で、頂きたいと思います。

メールアドレス tmu-al@tmu.ac.jp

Fax & Tel 042 - 670 - 7702

文書（封書・はがき）

〒192-0364 八王子市南大沢1-1

首都大学東京内

首都大学東京同窓会事務局

同窓会規約第32条の改正について

1. 改正内容

規約第8章（資産及び会計）第32条

『本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。』を

『本会の会計年度は、8月1日から翌年7月31日までとする。』と改正する。

2. 改正理由

会計年度終了後4ヶ月以内の12月に開催してきた評議員会を10月に開催することにより、1月又は2月開催している（総会）、懇親会（新年会）の前倒しが可能となり、大学祭、オープンキャンパスなどの秋の学校行事と同時期に開催することができることになる。このことにより若年世代を含むより多くの同窓生の参加が期待される。

3. 改正の経緯

首都大学東京同窓会は東京都の大学改革に対応して、2004年（平成16年）11月に設立され、本年11月に設立10周年を迎えます。この間、母体の各同窓会からの“継続性”を確保することを主眼として、会員相互の親睦並びに知識の増進を図ること目的として活動してまいりました。

この間、同窓会は、ファイティングスピリット賞、プロジェクト奨励賞授与などの学生の課外活動への支援や寄付講義提供を中心とする大学との連携協力事業、会報発行、ホームページ運営、会員情報管理データベース構築などの各種事業を推進してまいりました。これらの事業については、会員皆様のご理解とご協力を頂きながら今後一層活発に展開する計画です。

一方、規約第4条4項、『新年会の開催等会員相互の親睦を図るための事業』について、都内で開催してきた新年会への会員の参加者が少なく、特に若い世代の参加者がごく少な

いとの問題がありました。参加者は2001年には200名を超えていましたが、最近10年は100名前後となり80名を下回る年もありました。参加者の世代構成をみると高い年代の参加者数が漸次減少しているのに対してそれを補うべき若い世代の参加者数が増加していません。

このなかで2013年に南大沢キャンパスで開催したケースだけは多くの若い世代の会員を含む約300名の参加者がありました。このケースでは、グループ参加制度を設けた他、新年会開催に先立ち、学生たちによる研究室見学や各種施設、保護緑地見学などのキャンパス案内ツアーなども実施され、“大学の現状を見てみたい”“キャンパスに行ってみみたい”“在学生と交流してみたい”“徐々に同級会を開きたい”など様々な思いから各世代の同窓生が参加したものと考えられます。

以上のことから、理事会では懇親会開催などの事業のありかたを見直し、より多くの会員参加を通して同窓会の活性化を図る方策を具体的に検討することを2014年3月19日第68回理事会で決定し特別委員会を設置しました。

特別委員会は、「総会・新年会・評議員会のあり方検討会」として、2014年6月までに計3回の委員会を開催し、その報告書は2回の中間報告審議を経て、2014年9月17日第71回理事会において審議、承認されました。承認された特別委員会報告の骨子は以下の通りです。

【特別委員会報告（骨子）】

○今後の総会・新年会・評議員会、懇親会の開催について

- 1) 評議員会は毎年10月開催、その後、総会・懇親会を大学祭（11月初旬南大沢キャンパスあるいは10月下旬荒川キャンパス）に合わせて開催（2,3年に一度）する。
- 2) その他の年は1月か2月に総会・新年会（および講演会）を開催する。
- 3) 総会・懇親会を11月時に行った翌年は新年会を原則行わない。

「大学のキャンパスを訪れる、見学する」との要素は会員参加の強い動機、きっかけとなると考えられます。一方で、2013年の新年会の形のように大学キャンパスで開催することは降雪等の悪天候問題や大学入試センター試験（またはその予備日）及び一般選抜前期試験日程などとの関係で、あまり適切とはいえません。秋期に実施される大学祭は、様々なイベントの他に大学側が準備するオープンキャンパスなどがあり、それに併せて同窓生が集う総会・懇親会を開催することは、よい機会といえます。

大学祭開催時期に併せて規模の大きいイベントを行うことは、準備に時間を必要とし、また、会員の立場から考えても毎年ではなく2年か3年に1回で良いとの考え方もあります。また、従来型の総会・新年会を1月から2月に行うこと

を確保すべきとの意見もあります。これらのことから、大学祭に併せての秋期の総会、懇親会イベントの実施は2年ないし3年に1回とし、その他の年度は従来どおりに総会・新年会を実施することとします。

○総会・懇親会等への会員の参加意識向上のために

総会・評議員会・新年会の活性化・参加者増の方策、特に若い人の参加を得るためには、時期や会場の改善とともに、次の①から⑦の方策に組織的に取り組む必要があります。

- ①新年会で現在実施している還暦の他、30歳、40歳、50歳及び古希（70歳）会員の幹事を決め、実行委員会をつくり会員の参加を呼び掛ける。
- ②企業内同窓生に参加呼びかけを行う。
- ③クラブ活動のOB会に呼びかける。
- ④若い人に参加を呼び掛ける（卒業後から30代までの会員をターゲットとする）
- * 2015年（平成27年）の新年会は、若い世代の会費を3割から4割程度割引き、若い会員の参加呼び掛けを行なっている（臨時会報9号、ホームページに掲載中）。
- ⑤55歳～60歳（社会の第一線で活躍している人）をターゲットとする。

新年会参加者の中心（卒業期）は、常に退職後の世代となっているので、上記二つの世代をターゲットとし、そのニーズを考慮して新年会の内容・仕組みを考える。

⑥2013年の新年会（懇親会）、みやこ祭時に一部実施した方策

趣味の会のコーナー、産学公連携のコーナー、研究室紹介、起業している会員のコーナー、異業種交流会の場、健康福祉学部等大学院紹介コーナーの設置。

とりわけ健康福祉学部の卒業生は、社会に出てから大学院（夜間）に進学する意向が強いので、大学院紹介コーナーを設けることは卒業生にとっては魅力がある。

⑦ホームカミングデー（大学と共催）実施の大学への提案
ホームカミングデーは大学が主催して開催する性格のもので、多くの大学で実施している。平成27年11月3日南大沢キャンパスのみやこ祭期間中に予定している懇親会等のイベントは大学の協力を求める方針である。

4. 今後の進め方

今回、12月4日（木）第11回評議員会において、ご承認を頂いた場合は、初回の総会・懇親会・オープンラボ等のイベントは2015年11月3日（文化の日）に大学の協力を得ながら開催することを予定しています。

首都大学東京同窓会規約新旧対照表（案）

現 行	新
<p>（入会金） 第7条 本会の入会金は、2万円とし、大学の学部又は大学院に入学したときに納付するものとする。</p> <p>（会費） 第8条 略</p> <p>（役員） 第14条 略 1 略 2 略 3 理事 12名以上30名以内とし、評議員の中から互選する。なお会長及び副会長はこの定数外の理事とする。 4 評議員 原則として各期からその期の学部数あたり1名を目途とし、各期からの推薦又は立候補による。推薦者又は立候補者が定数に満たない場合は、理事会が指名することができる。 5 監事 2名以上3名以内とし、評議会の中から互選する。監事は、理事を兼ねることはできない。</p> <p>（役員を選任） 第16条 役員を選任に関する規定は、理事会の議決を経て、別に定める。</p> <p>（評議員会） 第23条 略 2 略 3 評議員会は次の事項について議決するものとする。 1. 略 2. 略 3. その他、会務に関する重要な事項</p> <p>（会計年度） 第32条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。</p>	<p>（入会金） 第7条 本会の入会金は、2万円とし、大学の学部又は大学院に入学したときに納付するものとする。 2 首都大学東京の各学部を卒業した者が、大学院に入学した場合は、入会金の納付は、免除するものとする。</p> <p>（会費） 第8条 略 2 第5条第2項の準会員は、学部または、大学院に在籍中は、年会費の納入は、免除するものとする。</p> <p>（役員） 第14条 略 1 略 2 略 3 理事 12名以上30名以内とし、評議員の中から互選する。 なお、会長及び副会長は、この定数外の理事とする。 4 評議員 原則として各期からその期の学部及び系の数あたり1名を目途とし、各期からの推薦又は立候補により、理事会が承認する。 推薦者又は立候補者が定数に満たない場合は、理事及び評議員の推薦により、理事会が指名することができる。 5 監事 2名以上4名以内とし、評議員の中から互選する。監事は、理事を兼ねることはできない。 2. 前項第3号の理事については、理事会の下に、「選挙管理委員会」を設置し、選任に関する事項を行うものとする。 3. 選挙管理委員会に関する事項は、理事会の議決を経て、別に定める。</p> <p>（役員を選任） 第16条 理事の選任に関する事項は、理事会の議決を経て、別に定める。</p> <p>（評議員会） 第23条 略 2 略 3 評議員会は次の事項について議決するものとする。 1. 略 2. 略 3. 会長及び副会長並びに理事の選任に関する事項 4. 監事の選任に関する事項 5. その他、会務に関する重要な事項</p> <p>（会計年度） 第32条 本会の会計年度は、8月1日から翌年7月31日までとする。</p> <p>付則（平成 年 月 日） 1 第11期の会計年度は、平成26年10月1日より平成27年7月31日までとする。 2 現理事及び監事の任期は、平成27年10月に開催の評議員会までとする。 3 現評議員の任期は、平成29年10月開催の評議員会までとする。</p>

第10回首都大学東京同窓会評議員会 議事録抜粋

本文中(資料参照)とあるのは、当日配布された資料参照の意味です。

日時 2013(平成25)年12月12日(木)

18時30分～19時35分

場所 四谷 スクワール麹町

出席者 会長代行1名 副会長2名

評議員67名 委任状44名

合計11名

定足数60名

(現評議員数180名の1/3)

事務局2名

一、開会

仮議長 関根紀夫理事が開会を告げた。

二、議長選出

澤井 泰理事(総務副委員長)が議長に選ばれ、定足数を確認後、山本春夫理事(企画委員長)を書記に指名した。

三、第9期活動報告

加藤充子会長代行の挨拶

「まず、急逝された前会長の高橋 晃様のご冥福を祈る。事務局の不手際による理事選におけるご迷惑をお詫びする。第9期は従前通りの事業を行ったが、ほかに新しい事業として、プロジェクト奨励賞を創設した。」

続いて、資料により第9期の活動を説明。

(1) 高橋会長の葬儀への出席

(2) 会報の発行 2回

(3) 第9回総会・新年会の開催

2013年1月26日(土)

南大沢キャンパス 国際交流会館

大会議室およびレストラン・ルヴェンヴェール

(4) 理事会を7回開催

(5) 第9回評議員会の開催

2012年12月12日(木)

(6) 支部総会の開催

北海道支部、九州支部、関西支部

「ホームページ」のデザイン改訂

ファイティングスピリット賞の授与(第5回)

2013年3月19日 4件

(7) プロジェクト奨励賞の授与(第1回) 4件 2013年7月23日

(8) 学生の課外活動支援

・第8回みやこ祭(南大沢キャンパス) 2012年11月1日(木)～3日(土)

・第27回青鳩祭(荒川キャンパス) 2012年10月20日(土)～21日(日)

・第61回大阪府立大学定期戦(於:東京みやこ祭)における講演会の提供 2013年11月3日(日)

「東日本大震災と福島第一原発事故に学ぶ」放射線を正しく理解しよう」

講師 首都大学東京健康福祉学部 大学院人間科学研究科 教授 福士 政広氏

「ゲノムと進化」

ヒトはどうしてヒトなのか?」

(15) 成績優秀者へ記念品を贈呈
首都大学東京入学式 高橋会長出席
2013年4月7日 国際フォーラム

四、第9期決算報告(資料参照)

澤井議長から第1号議案・第9期決算について報告を求めた。

吉田俊雄財務委員長が、第9期の会計報告をした。

第9期は、一般会計と特別会計に分けた。詳細は資料の通りである。

特別会計から一般会計へ2,555千円を繰り入れた。

一般会計は3,240万円の支出。数年前は500万円の赤字であったが、第9期は、147万円に減少した。

会計監査は3名の監事が行い、適正であると古川順光監事が報告した。

ここで澤井議長が質疑を求めた。

Q..田中和夫(都2期土木) 特別会計は今後も続けるのか。2,555千円を一般会計に繰り入れたのは理解できない。補足説明を求めた。

A..小松芳雄(事務局長) 特別会計から一般会計への繰り入れは、目的寄付の受け入れ範囲内(9期は555千円)および予算に決めている2,000千円の計2,555千円にした。

来期以降において、寄付の繰り入れを平準化したい。一般会計で赤字を出しても、特別会計からの繰り入れはしない。

今期は、幸いにも全体の会計からすると100万円近くの繰越し増がある。

Q..田中和夫 分りにくい。安易な穴埋めはよくない。入金会や年会費と線引きをする必要があり、理事会で整理してもらいたい。

A..澤井議長 了解した。理事会で検討

したい。

Q..中野雅博(都10期経済) 基本金5,000万円の利息はどうしているのか。

A..小松 管理上、基本金としている以上、利息も基本金に繰り入れることが妥当だと思う。しかし、定期預金にしていないので、利息は少額である。したがって、利息は一般会計に入れてきた。

澤井議長から第9期の会計報告について了承を求め、拍手多数で承認された。

第10期予算案

澤井議長から第2号議案・第10期予算案について説明を求めた。

吉田財務委員長が第10期予算案(2013年10月1日～2014年9月30日)について説明した。(資料参照)

予算の収支

一般会計 3,400万円

特別会計 650万円

次いで、第9期活動と第10期活動計画も補足説明をした。従前の活動と比較しても、大きな変化はないとした。

澤井議長から質問を求めたが質問はなく、第10期予算案について了承を求め、拍手多数で承認された。

六、理事、監事の改選

加藤会長代行(選挙管理委員)が理事選挙について説明した。(資料参照)

2013年8月10日から9月14日までの間に投票をした。旧八雲会の投票率は75%であった。資料にある理事候補について説明した。

Q..岡田元浩(都3期機械) 理事選の立候補理由が30字では短かすぎる。スローガンしか書けない。2,000字くらいはいる。選挙のやり直しを求める。ファイティングスピリット賞の自動車関連の学生の報告に疑問がある。他

にもある。

Q..重原好次(都8期化学) 理事会で

言うべきである。

Q..岡田 理事会では否決されたが、評議員会で意見を聞きたかった。

A..澤井議長 理事の選挙制度についてはいろいろな意見があり、今後、理事会で検討する。

澤井議長から資料の理事候補の理事就任を求め、拍手多数で承認された。(資料参照)

ここで15分間の休憩をとり、臨時理事会を別室で行った。

『臨時理事会』

臨時理事会では、野原理事が議長となり、新理事の自己紹介が行われた。

協議の結果、次の人事が決定した。

会長 黒石 輯(都14期経済)

副会長 大塚昶之助(都6期法)

黒川 信(都28期生物)

西形 勝宏(医技短1期放射)

榎本 昌史(科技大7期機械)

澤井議長が評議員会を再開し、野原理事が臨時理事会の人事について報告した。議長は、この報告について了承を求め、

拍手多数で承認された。

加藤会長代行の退任の挨拶

「大変 有難うございました」

黒石会長の就任挨拶(要旨)

「重責を担うことになりました。前会長のご冥福を祈ります。都立大14期経済卒で銀行勤めでした。今はある銀行の監査役です。誠心誠意つとめます。改めてよろしくお願い致します。」

つぎに議長は監事の推薦について、議場にはあったが、意見は無く、議長が次の2名を推薦した。

監事 加藤充子 古川順光

同窓会規約では「2名以上3名以内」という規定があり、あと1名は、慣例上、旧科技大出身者が就任することになっているが、現在のところ推薦がない。

当評議員会以降に、推薦を求め、第67回理事会で承認の上、第10回総会に報告するとの提案があり、全会一致でこの提案を了承した。

七、閉会

澤井議長が閉会を告げた。

別室に移り、和やかに懇談を行った。

第10回首都大学東京同窓会総会 議事録抜粋

文中(資料参照)とあるのは、当日配布

された資料を参照の意味。

日時 2014年1月26日(日)

会場 ホテル「アジュール竹芝」

飛鳥の間

出席者 会長 副会長4名

理事 評議員 正会員 計98名

事務局 2名

一、開会

榎本昌史副会長(科7期機械)が司会

努めます。姫路城の近くで生まれ育ちました。趣味はゴルフ、水彩画。土光さんを尊敬しています。」

ついで資料により、首都大学東京の田村教授と春田教授の世界的業績を紹介。続いて前回総会からの同窓会の活動が報告された(資料参照)。

(1) 高橋 晃会長の逝去
2013年4月21日

(2) 会報9号、臨時会報8号の発行
2013年1月16日

(3) 総会・新年会の開催
2013年12月6日

(4) 第9回評議員会を開催
2012年12月6日

(5) 支部総会の開催と出席
北海道支部 九州支部 関西支部

(6) 「ホームページ」のデザイン改訂
ファイティングスピリット賞贈呈
2013年3月18日

(7) プロジェクト奨励賞の授与
2013年7月23日

(8) 学生の課外活動支援
第8回 みやこ祭
第27回 青鳩祭

(9) 第61回 大阪府立大定期戦
大学との協賛事業
・スポーツ・文化活動賞の贈呈
・2013年度成績優秀者表彰
・寄付講義への講師派遣
・キャリア支援課の「OB・OG交流会」を後援

(10) 八雲サロンの12回開催
収支改善のための特別委員会の活動。
寄付金制度を改訂し、寄付を募った。

(11) 卒業式 国際フォーラム・高橋会長出席
2013年3月25日(月)開催
成績優秀者へ記念品を贈呈
入学式 国際フォーラム・高橋会長出席
2013年4月7日(日)開催

同窓会入会パンフレットの配布
質疑は次の議題の後でまとめて行うこととした。

三、評議員会報告(資料参照)
澤井 泰評議員会議長(都7期法)から評議員会報告がなされた。

(1) 第9期(2012年10月1日〜2013年9月30日) 決算について

(2) 第10期(2013年10月1日〜2014年9月30日) 予算について

第9期は一般会計と寄付金について処理を行う特別会計をつくり、会計処理を行った。第9期は一般会計が14万円の赤字であった。第10期は、収支の過不足は0円としてある。

(3) 理事、監事の選任について
今年も理事、監事の改選が行われ、理事会より提案された35名の理事候補が評議員会で承認された。また臨時理事会を開き、理事の互選により

会長 黒石 輯(都14期経済)
副会長 大塚昶之助(都6期法)

監事 黒川 信(都28期生物)
西形勝宏氏(医技1期放射線)
榎本昌史氏(科技7期機械)

君和田洋之氏(科技6期電子)が選任されたことを報告した。

ここで、黒石議長が質疑を求めた。特に質問はなく、拍手多数で承認された。

四、閉会
榎本副会長が閉会を宣言した。続いて飛鳥の間で新年会が和やかに行われた。

なお、新年会には、川淵三郎理事長、原島文雄学長、関係学部長の16名の方々が来賓として出席された。

寄付金受領のお礼

収支改善委員会のご報告とお願い

維持寄付へのご賛同有難うございました。

財務委員会委員長 吉田 俊雄 (都 19・数学)

新しい寄付制度による「維持寄付」については、皆様のご協力により、終身会費の納入後10年以上経過された方々約8,000名のうち、昨年6月以降、約1600名にのぼる皆様から、1,000万円を超えるご寄付を頂きました。

同窓会の収支の改善に、大きな力となっております。

大変ありがたく、感謝申し上げます。今後とも、なにとぞ、多くの皆様方のご協力をお願いいたします。

特に、現役学生に対する支援は、同窓会としても、積極的に行うことを目的にしておりますので、目的寄付につきましても、より一層のご協力をお願いいたします。

第10期の実績は (H26.4.1～26.9.30)、下記のとおりです。

(参考)

I 維持寄付

1. 終身会員で10年以上の方 280名 158万円

2. その他の方 126名 約90万円

II 目的寄付

35名 約55万円

(人数は、延べ人数です)

III 名簿

1. 維持寄付名簿 (終身会員で、納入後10年以上経過された方々です。)

2. 維持寄付名簿 (上記以外の方々です。)

3. 目的寄付名簿

終身会費を納入後10年を経過した会員へお願いした「維持寄付」

2014年9月30日現在

氏名	卒期	学科	加藤 英二	8	経済	小野田 博	13	機械	東條 賢一	18	英文	西村 幸男	21	土木
絹川 正吉	1	数学	岡崎 不二夫	8	法学	松田 靖久	13	経済	五味 武夫	18	機械	松井 庸司	21	経済
藤田 忠弘	1	機械	南部 敦	8	化学	山内 信夫	13	社会	増田 貴一郎	18	物理	高塩 博	21	工化
柴 義康	1	経済	池垣 潤三	9	経済	小野 玉恵	13	中文	岡 守男	18	経済	我妻 茂男	22	心理
永嶋 伸一郎	1	工化	久崎 力	9	電気	渡邊 洋三	13	法学	松本 敬三	18	経済	下山 善秀	22	土木
杉山 喜美子	1	化学	倉光 義明	9	経済	皆川 欽一	13	土木	佐藤 英行	19	物理	原口 久利	22	土木
平野 菅保	1	物理	池田 遜	9	法学	須山 孝	14	経済	平野 謙二	19	機械	坂本 靖之	22	電気
山口 直昭	2	経済	大野 令子	9	化学	神原 貞昭	14	電気	高岸 典子	19	数学	江澤 徹	22	数学
高芝 一民	2	法学	遠藤 善博	9	機械	椎名 信義	14	建築	反町 研一	19	法律	河野 清	22	英文
中村 正雄	2	工化	鎌田 達雄	9	化学	石原 裕	14	機械	小島 久夫	19	法律	山崎 進	22	政治
栗津 清純	2	経済	小倉 幸弘	9	化学	板倉 仁	14	法学	東條 友治	19	工化	浅野 俊雄	22	地理
渡邊 靖	2	物理	山根 典子	9	化学	紙透 碩彦	14	土木	又木 真理	19	英文	松島 省三	22	法律
橋本 具久	2	法学	清浦 忠光	9	化学	山内 一芳	15	英文	吉澤 聖一郎	19	土木	山口 春子	22	基法
本郷 馨	2	電気	山寺 徳明	9	土木	浅野 勇夫	15	経済	鈴木 正光	19	政治	須田 信幸	22	工化
西川 博	3	法学	池垣 協子	10	独文	岡田 英夫	15	法律	石川 和美	19	物理	森田 秀樹	22	法律
大宮 一夫	3	工化	今井 久雄	10	法学	高坂 一之	15	機械	廣川 紀子	19	英文	大塚 ちか子	22	生物
清水 裕	3	機械	大坪 孔治	10	物理	田中 正昭	15	経済	辻本 勤	19	政治	濱田 正和	23	電気
大木 正之	3	機械	石毛 克政	10	電気	間瀬 孝一	15	土木	宮司 光康	19	物理	長谷川 恵三	23	法律
網島 義一	4	法学	森崎 正義	10	経済	堀 伸雄	15	経済	岡田 修	20	政治	市岡 耕二	23	化学
土田 悦夫	4	経済	平井 敏昭	10	数学	並木 俊夫	15	電気	吉岡 喜人	20	機械	内山 美津子	23	法律
岡本 弘道	4	法学	中川 守美	10	機械	中島 暉允	15	法律	梅垣 洋一	20	物理	浅利 元宏	23	経済
戸澤 満智子	5	化学	里見 明夫	11	土木	衛藤 裕子	15	英文	小松崎 明子	20	教育	藤井 敏昭	23	法律
宮田 孝一	5	法学	秋山 秀泰	11	電気	坂寄 浩庸	16	電気	赤保谷 久男	20	建築	永長 修一	23	電気
松木谷 信男	5	経済	小泉 時宏	11	経済	原田 忠弘	16	建築	林 正雄	20	電気	酒井 民生	23	化学
奥宮 盛治	5	電気	山田 脩	11	経済	古田 明美	16	地理	小川 千代子	20	独文	石野 敬太郎	23	工化
渡辺 濱夫	5	化学	関 博之	11	化学	近藤 焜	16	化学	鈴木 和子	20	国文	横川 邦明	24	機械
辻本 弘明	6	経済	阿部 紀彦	12	建築	小林 茂之	16	機械	恵羅 博	20	数学	飯島 修治	24	生物
足土 昭夫	6	機械	伊東 悠治	12	電気	小松 章一	16	化学	恵羅 明子	20	数学	田平 正男	24	哲学
石井 源七	6	経済	河野 桃弘	12	史学	高木 美都子	16	数学	壁谷 喜一	20	法律	浅井 文英	24	社会
柳原 榮一	6	化学	中岡 久士	12	電気	大内 忠夫	16	法律	今井 博	20	建築	井出 光	24	英文
山崎 枉男	7	法学	石川 慶一	12	経済	高橋 久明	16	経済	瀬田 充子	20	中文	蓮池 博	24	土木
田場 実	7	法学	鈴木 重之	12	数学	松田 慶一	16	土木	仲澤 幹雄	20	化学	五十嵐 安雄	25	土木
佐々木 守	7	工化	斎藤 精徳	13	電気	木村 泰邦	17	土木	松田 二美	20	生物	森合 正則	25	法律
田中 恒雄	7	経済	加納 楯夫	13	工化	岡 美明	17	機械	色川 清	20	法律	柳澤 龍一郎	25	物理
島村 義孝	7	電気	石橋 康男	13	数学	工藤 博正	17	土木	松本 六郎	20	建築	横浜 道彦	25	建築
石森 壽一郎	7	電気	岩瀬 久志	13	土木	辻村 不二夫	17	経済	松下 高明	21	政治	山崎 徹	25	史学
榎本 晟	7	工化	斎木 邦弘	13	法学	和田 正美	18	機械	梅村 葉子	21	生物	小野島 正彰	25	法律
池田 章子	7	史学	佐久間 章吉	13	建築	山本 国松	18	電気	青木 正克	21	経済	山本 裕三	25	工化
高橋 敏郎	8	法学	岩澤 修	13	電気	蓮田 文昭	18	社会	宇賀神 博	21	心理	佐藤 俊一	25	機械

麻生 純二 26 法律	曾 士才 28 中文	村上 裕一 31 法律	戸澤 加江子 35 生物	瀧本 志野 38 教育
柳澤 章 26 土木	齊藤 智之 28 法律	樋口 昌男 31 土木	篠塚 眞樹 35 建築	吉澤 由浩 38 電気
多田 孝一郎 26 法律	神谷 潔 28 物理	篠原 朋子 32 法律	上野 創 35 英文	外山 高史 39 法律
萩原 潔 26 法律	小柳 えり子 29 英文	武藤 郁子 32 心理	高橋 弘子 35 英文	野田 由紀 40 経済
小沼 千恵子 26 仏文	吉田 光美 29 国文	佐藤 久子 32 史学	横田 千秋 35 化学	野末 行助 42 法律
原田 茂 26 機械	磯崎 隆司 29 土木	喜 卓子 32 教育	桑山 喜則 35 工化	卷島 國雄 42 法律
野村 貞雄 26 土木	高橋 玲子 29 工化	嘉村 知久 32 哲学	小澤 育夫 36 経済	伊藤 健司 43 経済
荒川 和彦 26 機械	岡田 正義 29 土木	小原 強 32 土木	笠原 達也 36 物理	山浦 優子 44 国文
藤井 謙治 26 建築	岡田 卓也 29 電気	工藤 勇 32 法律	伊藤 倫子 36 史学	吉田 直美 44 都市
湯本 慎一郎 27 土木	石島 理充 29 工化	鈴木 聰 32 電気	齋藤 綾子 37 国文	光岡 卓哉 44 機械
上野 洋子 27 生物	木下 慶一 30 機械	遠藤 徳良 32 土木	山崎 祐二 37 建築	田中 延和 45 政治
加藤 雅久 27 経済	小沢 奈美恵 30 英文	菊川 茂身 33 法律	吉田 洋之 37 土木	松本 裕子 45 史学
山岸 健 27 化学	高埜 文枝 30 物理	田中 徹 33 地理	根津 克己 37 地理	松本 英紀 47 法律
島田 礼子 27 数学	明子 30 物理	小尾 和正 33 経済	梶浦 伸子 37 経済	牧原 立 48 仏文
小林 泰子 27 生物	四戸 素代 30 心理	佐藤 祐一 33 電気	佐久間 直樹 37 地理	野木森 明香 49 経済
小島 正志 28 法律	後藤 洋 30 経済	佐藤 益人 33 法律	串田 祥一 38 土木	武藤 栄 49 機械
青木 晶子 28 経済	川上 朝子 31 史学	栗山 順子 33 心理	橋本 健一 38 電気	

学生支援を目的とする「目的寄付」

*大学名無しは旧都立大学。医は旧医療技術短大、科は旧科学技術大学、首は首都大学東京の略

氏 名 卒期 学科	大塚 昶之助 6 法学	高野 六雄 13 機械	藤井 敏昭 23 法律	外山 高史 39 法律
杉山 喜美子 1 化学	柳原 榮一 6 化学	皆川 欽一 13 土木	海老原 弘 25 経済	西形 勝宏 医1放射線
米満 澄 2 物理	小松 芳雄 11 経済	黒石 輯 14 経済	山本 裕三 25 機械	橋本 雄介 科17生産
神田 二男 4 政治	小島 龍昭 11 工化	中島 平三 18 英文	四戸 素代 30 心理	石塚 裕也 首2013政治
志摩 功 4 土木	増渕 久一 11 経済	鈴木 正光 19 政治	田中 徹 33 地理	田村 尊宣 首2013物理
小松原 久夫 5 英文	石井 淑夫 11 化学	奥村 節子 20 心理	平山 英敏 39 中文	

目的を定めない一般的な「維持寄付」

*大学名無しは旧都立大学。医は旧医療技術短大、科は旧科学技術大学、首は首都大学東京の略

氏 名 卒期 学科	佐藤 信一 7 電気	加納 楯夫 13 工化	滝島 三男 21 経済	中山 めぐみ 30 中文
平野 菅保 1 物理	湯原 美陽子 7 国文	松園 典子 13 人類	高塩 博 21 工化	四戸 素代 30 心理
川島 岩治 2 経済	榎本 晟 7 工化	鶴岡 実 13 経済	小澤 敏夫 21 土木	橋本 公一 30 工化
大瀧 敏夫 2 法学	石岡 義久 8 経済	加島 義宏 13 機械	河野 清 22 英文	小沢 奈美恵 30 英文
口 由雄 2 法学	遠藤 慶三 8 物理	小野田 博 13 機械	河本 通郎 22 機械	川上 朝子 31 史学
米満 澄 2 物理	南部 敦 8 化学	高野 六雄 13 機械	吉田 喜一 23 機械	諸橋 享 31 工化
本郷 馨 2 電気	高橋 清治 9 法学	山内 信夫 13 社会	内山 美津子 23 法律	湯浅 富久子 31 物理
台 博 3 経済	所 弘之 9 経済	渡邊 洋三 13 法学	吉田 雅俊 23 機械	大森 保 32 法律
市川 比良久 3 生物	関根 邦夫 9 物理	皆川 欽一 13 土木	杉山 由彦 23 経済	鈴木 聡 32 電気
笹川 和郎 3 建築	神作 順子 9 心理	林 正弘 14 経済	藤井 敏昭 23 法律	砂田 武則 34 建築
鈴木 数夫 4 化学	石毛 克政 10 電気	山本 とも子 14 生物	近藤 秀衛 23 経済	尾上 志保 34 法律
大池 秀夫 4 経済	越石 喜代三 10 物理	田口 裕 14 経済	林 忠行 23 法律	佐藤 邦彦 35 政治
西本 一成 4 経済	菅野 則子 10 日東	来住 賢一 14 工化	荻原 信吾 24 仏文	中島 俊光 39 建築
細川 義政 4 機械	小島 辰治 10 工化	藤井 利宣 15 化学	横川 邦明 24 機械	平山 英敏 39 中文
原 宏康 5 法学	小花 隆司 10 物理	坂寄 浩庸 16 電気	伊藤 隆介 24 物理	大和田 岳彦 40 史学
大塚 昶之助 6 法学	梅田 一好 11 機械	大田 正彬 16 経済	津波古 繁夫 24 機械	武田 清志 43 経済
龍澤 茂雄 6 電気	高橋 義哉 11 法学	高橋 久明 16 経済	田中 紳 25 機械	伊藤 光 47 法律
田中 毅 6 法学	小泉 時宏 11 経済	佐々木 稔 17 経済	中村 直英 25 法律	武藤 瑞枝 56 法律
山口 喜市郎 6 土木	戸田 正之 11 電気	浜地 真 17 数学	長島 壽 26 土木	西形 勝宏 医1放射線
神宮字 剛 6 経済	横手 久典 11 機械	中島 平三 18 英文	滝口 亨 26 数学	池田 弘道 医10看護
澄川 沃 (生物7期 他一同17名) 7 生物	小島 龍昭 11 工化	柏 正博 18 機械	西川 裕子 27 化学	浦 誠 科1管理
君塚 宏 7 機械	浅野 繁夫 11 経済	東條 友治 19 工化	佐藤 好男 27 土木	籠田 大地 首2011化学
玉利 幸雄 7 経済	吉田 勝彦 11 生物	村田 理 19 物理	島田 礼子 27 数学	田村 尊宣 首2013物理
武居 文彦 7 化学	小林 清 11 建築	川上 芳正 20 機械	若井 隆男 28 経済	赤松 芳昇 首2014分子
植崎 學 7 電気	中澤 勳 12 電気	小川 千代子 20 独文	宮本 義仁 30 建築	
	星銅 孝生 12 建築	出戸 達雄 21 物理	三橋 涉 30 生物	

訃 報

ご逝去された先生方および事務局にお知らせのあったご逝去された同窓の方々を謹んでご報告申し上げ、心からの哀悼の意を表します（届け出順）。

氏 名	所 属	逝去年月日	氏 名	所 属	逝去年月日
桑 澤 清 明	名 誉 教 授 (理 学 部)	2014.06.27	山 村 博 孝	都20・工学・土木	不詳
澁 谷 達 紀	名 誉 教 授 (法 学 部)	2014.08.29	前 田 泰 宏	都17・院工・電気	2011.
佐久間 秀 夫	システムデザイン学部助教 (都23・院工・機械)	2013.12.05	和 田 善 通	都11・工学・機械	2013.11.04
小 野 茂	名 誉 教 授 (人 文 学 部)	2014.09.10	喜 卓 子	都32・人文・教育	2014.03.15
香 川 誠 三	都23・人文・社会	不詳	石 橋 実	都05・工学・工化	2013.12.02
兵 頭 志 明	都26・院理・化学	2014.04.14	林 英 輔	都09・院理・物理	2014.05.28
川 崎 孝 子	都04・理学・物理	2011.11.24	栗 原 勝 信	都07・法経・法学	2013.06.29
小 宮 敏 裕	都25・工学・土木	2014.05.12	富 川 潤	都01・工学・建築	2014.03.24
鶴 岡 詳 晁	都09・法経・経済	2013.10.03	村 上 直	都04・院人・日東	2014.02.10
赤 地 有 一 郎	都09・法経・法学	2013.07.15	星 野 高 広	都18・工学・土木	不詳
大 野 豊	都02・人文・経済	2013.09.03	蛭 子 康 男	都13・法経・経済	2013.12.13
梅 垣 滋	都08・工学・建築	2013.03.18	水 野 信 次	都08・工学・機械	2012.12.24
竹之下 隆 弘	都07・法経・経済	2014.05.14	本 多 君 美	都03・人文・経済	2013.12.11
因 藤 龍 彦	都02・人文・国文	2014.01.03	山 田 忠 博	都15・理学・物理	2014.04.15
勝 呂 宏	都05・理学・化学	2014.02.14	國 谷 直 史	都21・工学・電気	2011.
東 瀬 利 豊	都01・院理・化学	2013.08.29	松 村 伸 也	都47・経済・経済	2009.06.02
西 川 恵 六	都05・工学・建築	2013.03.16	宇 藤 友 好	都41・経済・経済	1996.05.
堀 江 親 延	都01・工学・機械	2013.12.13	小 澤 茂	都02・人文・経済	2014.02.08
大 矢 勳	都09・法経・経済	2014.01.10	比 嘉 規 雄	都06・工学・建築	2014.01.04
宮 脇 昇	都26・法学・法律	不詳	澄 川 沃	都07・理学・生物	2014.03.31
藤 田 忠 弘	都01・工学・機械	2014.03	中 村 禎 理	都06・院理・生物	2014.03.18
松 中 達 也	都39・法学・政治	2014.01.17	城 健 市	都03・工学・工化	2014.03.23
大 川 俊 次 郎	都10・工学・機械	2014.04.27	三 島 秀 喜	都05・人文・経済	2013.10.01
鈴 木 信 行	都14・工学・建築	2013.12.12	堤 利 志 雄	都21・法学・法律	不詳
門 脇 孝 一	都26・人文・哲学	2014.01.31	平 野 菅 保	都01・理学・物理	2013.02.04
高 橋 統 一	都02・院社・人類	2014.02.18	関 根 邦 夫	都09・理学・物理	2014.07.09
道 又 健 次 郎	都01・人文・経済	2012.10.31	大 竹 三 郎	都02・人文・経済	2013.05.29
小保方 武	都12・院理・物理	2013.11.01	峯 村 勉	都06・人文・史学	2012.05.28
			木 原 睦 郎	都16・法学・法律	2014.07
			山 田 和 男	都03・人文・法学	2014.01.28
			松 村 哲 郎	都17・理学・物理	2014.09.01
			矢 吹 實	都11・工学・機械	2014.08.19



TMUSMCの半世紀

私たち、9期生が都立大に入学したのは1957年であった。戦後の混乱も収まり、学生たちも若干は生活に余裕ができたのか、クラス(SIA)の級友たちは勉学の合間に登山を楽しむ余裕があった。たまたま私は入学と同時に山岳部に入り、それなりに登山の基礎と危険回避の技術を学んでいた。高校時代合唱に明け暮れた私は大学では体育系の部活をやろうと決めていたのだが、(今でもそのようだが)当時の都立大の体育会系の部活の戦績はいずれも下から数えた方が早かった。知恵を絞った結果「勝敗のはっきりしない運動部に入ろう」と思い、選んだのが山岳部だった。



至仏山頂(尾瀬)にて 1960年・大学3年生のころ

クラスの中で山に行く友人たちは「都立大学理学部山の会」なる名前で、化学科の畑一夫先生を顧問にいただき活動を続けていた。そして「山岳部の学生が一緒なら安心だろう」と思ったのか、彼らに誘われて山行につき合うことが多かったが、いつの間にか私も彼らの山仲間の一員となっていた。都立大学理学部山の会では名称が長すぎるので、「山の会」と呼んでいたが、正式に大学側が認知した団体ではないので、万一事故でも起こした場合、大学名では具合が悪かろうと、英文の略称「TMUSMC」を名乗ることも多かった。ただし母校の名前が変わってしまった現在、晴れて都立大学を名乗っても問題はないかもしれない。

山の会の活動は卒業後も現在まで続いている。継続の原動力は学生時代に発行をはじめ、今日まですでに200号を超えた「山の会ニュース」で、会員たちの直近の山行や折にふれて開催される山の会集会の報告などが主な紙面だ。1997年から12年間は、毎年夏に海外トレッキングと称して主としてヨーロッパの山々にも出かけた。今回の会誌10号の表紙を描かれた安部美津子さん(理・化・3)は会員ではないが、何度も我々の海外トレッキングに参加されている。

山の会が1966年から弘前郊外の岩木山麓のスキー場で続けている岩木山スキー合宿は今度の正月で連続50回目になる。喜寿を迎えた会員の参加は少なくなった代わりに、会員の子供や孫の参加も多くなり、この正月には賑やかに現地岩木山スキー場で50周年を祝うことにしている。

(理・化・根谷崎武彦)



都立大・理・化学 4期「ふかさわ会」開催

卒業の翌年からはほぼ毎年継続してきた懇親会は旅行会、有志のゴルフコンペを含めると今年で何回目なのか数えきれない。数年前から足腰の悪い仲間が増えて旅行会から昼食会に切り替えた。

2014年5月15日に新宿区内の「木曽路」で開催した懇親会には7名が参加された。今回は21分の7と、これまでにない少人数の集まりで少々さみしい会になるのではと心配していた。ところが、参加の皆さんは、ゆったりとした会場、1年ぶりの再会で話が弾み、規定時間をオーバーしてしまうほど。話題は、各々の日頃の生活の様子、食事、健康法、孫の話、時事問題など盛りだくさんで、STAP細胞の話が締めくくりになった。老後?の憂鬱な話は出なかったようで、これは、仲間の皆さんの日頃の摂生がよろしいためと感心した次第である。今後の会の運営についても話し合った。

体調の良くない方、連れ合いの方の体調不良など、理由はさまざまであったが、会合への参加が難しい方、脱会したいという方、会費の問題、会報「ふかさわ」の発行継続、いずれも会員の高齢化が大きな理由となり、会の存続は難しいかなと思えた。

しかし、今回の出席者の皆さんは、「こんな楽しい会は年寄りにとって数少ないので、幹事さんが世話できる間は続けよう」と言う結論。結局、万年幹事が体調管理に励みながら頑張らざるを得なくなった。

(文責 野原 剛)



宴会後の「ふかさわ会」の皆さん

□ 東京都立大学/首都大学東京 物理化学第二講座
□ ~分子集合系物理化学研究室同窓の集い
□

昨年（2013年）10月12日（土）の午後2時～4時に、標記の集いを南大沢キャンパス国際交流会館内のルヴェソンヴェール南大沢で開催しました。理工学系化学コースの分子集合系物理化学研究室の前身である物理化学第二講座は、1954年に故佐々木恒孝名誉教授によつて都立大理学部化学科に創設され、その門下生による同窓会は「インクリ会」という名称で開催されてきました。しかし、佐々木先生が2010年5月に98歳で亡くなられてインクリ会が解散したこともあり、今回1954年から2013年まで60年間にわたる研究室の卒業生・旧職員、それに現役学生・現教員など300余名を対象とした合同の集いを初めて企画しました。

企画に先立って、同窓生名簿の作成を1年以上前から始めましたが難航し、開催案内を届けられたのは対象者の半数以下に留まりました。それでも、当日は予想を大きく上回る63名の方々にご出席いただきました。1955年卒の小野正宏・角田光男両氏による乾杯の音頭で始まり、次いで旧職員でもあられる清宮愁先生（都立大名誉教授）と田嶋和夫先生（神奈川大特任

教授）からご挨拶を賜りました。何十年振りかで再会した参加者も多く、会場の随所で歓談の花が咲きました。途中、大学および研究室の変遷に関する解説や、60年間にわたる研究室の写真スライドを交え、瞬間に予定の時間が過ぎました。最後に合同の同窓会の名称や今後の活動に関する提案が承認され、お開きとなりました。ご出席いただいた方々、名簿の作成にご協力いただいた方々には、改めてお礼申し上げます。

ところで、われわれ世話人の心残りは、今回の集いを通知することができなかった方が多数おられることです。この拙文をご覧になった方で開催案内を受け取られていない場合には、是非とも下記4名のいずれかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

大部 一夫 (kazuohbu@nifty.com)
岩橋 禎夫 (makio-iwahashi@com.home.ne.jp)
加藤 直 (理工学系化学コース)
(kato-tadashi@tmu.ac.jp)
細井 勇治 (marie-mp@ttv.ne.jp)



Wien 大学カーボンナノチューブ研究者との
 MeC 有志の懇親会

2014年2月5日、南大沢キャンパスで行なわれた物理・化学のシンポジウムに参加したWien大学のカーボンナノチューブ研究者と首都大学東京の関係者とMeC有志の懇談会と懇親会が行われました。Wien大学日本学研究所と本学とは交換留学生の協定があり、その関係で昨年5月にWien大学で講演を行ったことは昨年同窓会誌で紹介しました。

昨年のWien大学講演会に持参した母校からWien大学への親書作成のご尽力された都市教養学部長の岡部 豊教授が今回の会合も計画されました。岡部教授は予てからのご意向である「Wien大学との関係は日本研究所と本学との点の接触から更に幅広く、線での接触に広げたい」とのお考えを実現させることになりました。

参加者は、大学から物理学科の岡部教授・青柳准教授。Wien大学の研究者Dr. Krambergerと大学院生3名、合計4名です。MeCから、今回は専門家として遠藤慶三先生（理・物・8）と、高見澤幸夫MeC理事長（工・工化・12）、笹川和郎（工・建築3）、光藤康子（人・社会・9）、吉田俊雄（理・数・19）、保延 薫（工・電気・32）の6名。

学部長室で各自の自己紹介と最新の研究内容の説明。その後南大沢駅近くに場所を代えて懇親会を行いました。Wien大学留学生Michaela嬢が日独英語を使ってホスト役を務め、懇親会は大変に盛り上がりました。Wien大学の絆を深め、母校国際化に貢献できました。

笹川 記



【解説：カーボンナノチューブとは】首都大学東京の真庭教授、柳准教授らによるカーボンナノチューブの研究で、熱を電気に変換するきわだって優秀な温度差発電特性（ペーゼック効果）が発見された。現在、東京理科大学、ウィーン大学、産業技術総合研究所のメンバーを結集して、このような特性の物理的起源を

探索し、一方で、省エネに密接な素子が創られつつある。この研究には本学特別研究費、文科省科研費のほか独立行政法人からの研究補助金が寄せられている。

（遠藤 慶三【理・物・8期】記）

留学生と現役学生を招いてのひな祭り会

春のある日曜日の午後「ひな祭りパーティー」が我が家で行われた。参加者は留学生4名現役学生6名そしてMeC会員7名であった。かつて滞在していたアメリカでは、大いに活躍した娘のお雛様七段飾りが再び日の目を見た。組み立てから、ディスプレイまで、完成写真を見ながら留学生と現役学生がワイワイガヤガヤ楽しそうに一生懸命作業にあたった。留学生にとってはすべてが珍しく、完成すると満足感と達成感に喜びもひとしおであった。次は「打掛」の試着。ひな壇の前で、一人ずつお姫様スタイルで記念撮影。やはり女性はどっこも同じですね、打掛を羽織ると自然に“笑顔になる”“美しくなる”そして男性陣からの拍手も自然に…。その後ノンアルコールの甘酒で乾杯しパーティーが始まった。

サングリアやキーマカレーに差入れの甘味が変わり、和やかに楽しい一時を過ごした。最後に、ひな壇のぼんぼりに明かりを灯し、ひな祭りの歌を現役学生のピアノに合わせ、“灯りをつけましょぼんぼりに…”と合唱した。日本語に不慣れな学生には留学経験のある学生が通訳をしてくれた。また、参加した女性には着物のプレゼント、そして留学生の希望者を、国立劇場の日本舞踊名人会へ招待した。

夕方6時、高見沢理事長のご発声のもと“三本締め”で無事パーティーは終了した。本会を開催するに当たり国際交流センターの御助力を頂き、また記念写真は川淵理事長・原島学長にもお送りし、楽しんで頂きました。

NPO法人MeC会員 都9・電気 久崎 力





第 39 回「埼玉八雲会」研修懇親会報告

埼玉八雲会は 1992 年に、東京都立大学の卒業生で、埼玉県企業・官庁に勤めている者、および埼玉県に居住している者の異業種交流と相互の研鑽を目的に設立されました。主たる事業は、年 2 回、春と秋の時期に、研修会と会員同士の交流・懇親を深める会として実施、今回は第 39 回として、埼玉県庁の近くの「埼玉会館」5 階の会議室で実施しました。

参加者は 17 名で、平均年齢は 71 歳というところですが、今回は、埼玉県で実施している「県政出前講座」の中から、「埼玉の大気環境」というテーマで、埼玉県環境部大気環境課の企画監視担当の方をお呼びして、埼玉県の大気環境についてお話を伺いました。お話の中で一番、印象に残ったのは、埼玉県においては、東京都の元石原慎太郎知事が実施した「自動車の排出ガス規制」とほぼ同じ水準で排出ガスの規制をしているので、他県から、トラックが埼玉県に入った場合、他県では規制に引っ掛からなくても、埼玉県では規制に引っ掛かるので、そのトラックは運転できなくなるということです。つまり、私達は排出ガスによる汚染から守られているということです。この外にも、今話題になっている PM 2.5 については、その粒子が非常に小さいので、呼吸で吸い込むと、肺の奥まで入り込むので、その影響は深刻であり対策が急がれている、との報告がありました。

また、当日は、私達会員の中で、1963 年卒の会員の方（泉ゼミ吉本幸一氏）佐藤栄作記念国連大学協賛財団が募集した「佐藤栄作賞」に「人類の幸せ探しの道」とはというテーマで応募したので、その論文の主要な部分について報告がありました。最後に懇親会では、各メンバーの近況報告があり、和気藹々の内に終了しました。（記録、14 回経済卒 佐伯 公）



なお埼玉八雲会は首都大学東京同窓会の支部ではありませんが、埼玉地域関連同窓生の集まりとしてこれ

からも皆様のご参加をお待ちしています。研修懇親会の案内など、お問い合わせは事務局佐伯公 i-saeki@orange.plala.or.jp までお寄せください。また埼玉八雲会親睦ゴルフ例会も年 2 回開いています。

第 40 回埼玉八雲会は、2014 年 11 月 28 日（金）に埼玉会館で「生涯学習と社会教育」のテーマで埼玉県の生涯学習の指針についてお話を伺う予定です。



工学部機械工学科 14 期同窓会

4 月 3 日に工学部機械工学科 14 期同窓会が 14 名の参加を得て、東京都小平市にある職業能力開発総合大学校の施設見学を兼ねて開催した。当日は同大学校の桜は見ごろを迎えていたが、あいにくの花散らし雨で、晴天ならばもっと楽しめたのという残念な気持ちがあった。

同大学校は、職業訓練指導員の養成・能力の向上、我が国初の学士の育成など日本のモノづくり分野の重要な役割を担っている。施設見学は同大学校の古川勇二校長（工学部機械工学科 14 期）より同大学校の概要説明を受けた後、機械専攻、電気専攻、電子情報専攻、建築専攻の実験・実習室などの施設について、各専攻科の担当教授、准教授より説明を受けた。

参加者は大学卒業後約 50 年前の学生時代を振り返りつつ、技術の進歩に大きなギャップを感じながらも活発に質問をし、これに対して丁寧なかつ理解しやすい説明をいただいた。

参加者一同、同大学校が将来の日本のものづくりの拠点の 1 つとなること、さらに、ものづくりのための人材育成の重要性を実感した。

その後は、大学校近辺の料理店に席を移し懇親を深め、参加者の近況報告や都立大学校歌、応援歌を合唱するなど大いに盛り上がり、無事に終了した。



建築実習場を見学する機械工学科の一行

TMU PLAZA

都立大 理 物理 4 期 一泊旅行の開催

昨年久しぶりにクラス会を開催したところ、今年もという声上がり、一泊旅行を行った。

去る5月19日～20日に、マホロバマインズ三浦(神奈川県三浦市)に宿泊、翌日は若草萌える城ヶ島散策と、楽しいひと時を過ごした。ホテルからの眺望は最高で、日の出がきれいであった。夕食は和食会席(金目鯛煮付け、飽肝焼きが良かった)、朝食はバイキング、温泉は広く快適であった。城ヶ島では天気恵まれ、展望も良く、岩場に咲く可憐な花が旅情を誘った。唯、岩場は足腰の弱い人には若干きつかった様である。

調査不十分で消息不明の方があり、限られた範囲のみの連絡ではあったが、6名(浅野、足立、石渡、須賀、篠原、深野)が参加した。中には数十年ぶりの顔合わせもあり、卒業当時は就職難でその苦労話、結婚当時の話題、名物教授の話、故人の思い出、などに花が咲き、話題に尽きることなく、和やかな雰囲気であった。更には、お互いの健康を喜び合いながらも、加

齢による体力の劣化を劳わりあうのであった。

偶然にも横浜在住3名、千葉在住3名の組合せとなり、今回は千葉、東京方面の近間で開催してはとの意見が出された。同時に消息不明の方の解明連絡を強力に進めることとなった。

いずれにしても、皆傘寿を超えたので、それぞれの健康管理に十分に心がけ、再会を期しつつ、城ヶ島を後にした。

深野 松三(都4・理・物理)



2014 年度(第 21 回)七機会

例年7月に開催の七機会を今回は電気科と合同でS1Cクラス会として3月22日に開催。今年は卒業55年の節目に当たり合同開催となった。場所は電気科・田村貞雄氏の紹介で、新日鉄住金代々木クラブ。昼の立食会。記録的な積雪や寒波の襲来など大変に厳しかった冬も漸く終わり、開催当日は穏やかな彼岸日和。参加者は 機械科14名、電気科7名。機械科では新たに2名が鬼籍に入り合計10名の物故者(いつ

の間にか4人に1人)。八十路の坂はかなり険しいようです。電気科の面々とは数年ぶりの再会。名前と顔が一致しないが、聞き覚えのある声、思い出話を交わしていると55年前の光景が目には浮かび、ついこの間のような懐かしさに浸ったひと時でした。全員の近況報告は聞けなかったが、胃摘出の大病と闘っている方(機械)、個人で会社を経営されている元気な方も(電気)。電気科の面々とは5年後の再会を期して散会。次回の七機会には2015年。

文責: 君塚 宏、長谷川 好美(都7・工学・機械)



首都大学東京同窓会 会計報告

財務委員長 吉田 俊雄

第10期決算 (一般会計)

自 2013年10月1日 至 2014年9月30日

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	49,680,824	会報制作費	5,438,688
入会金	22,360,000	会報発送費	4,563,194
維持会費	7,095,000	会員情報管理費	2,756,760
総会・新年会費	595,500	会議費	1,316,442
記念イベント会費	472,000	総会・新年会費	969,958
預金利子	16,210	記念イベント費	713,947
雑収入	178,750	通信費	358,394
繰入金	1,943,224	学生支援費	3,482,305
小計	32,660,684	事務費	498,992
		人件費	5,529,160
		八雲クラブ運営費	864,000
		八雲クラブ賃借料	2,280,000
		イベント費	336,000
		組織強化費	411,460
		雑費	59,257
		振込手数料等	806,271
		事務所使用料	382,859
		OA環境整備費	401,062
		入会促進費	1,209,115
		会費納入促進費	282,820
		予備費	0
		小計	32,660,684
		当年度過不足額(収入-支出)	0
		次年度繰越金	49,680,824
合計	82,341,508	合計	82,341,508

第10期決算 (特別会計)

自 2013年10月1日 至 2014年9月30日

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,983,931	払込票作成費	533,084
目的寄付	1,070,000	データベース改訂費	105,000
維持寄付	1,524,700	一般会計繰入金	1,943,224
維持寄付(終身)	3,180,000	小計	2,581,308
小計	5,774,700	当年度過不足額(収入-支出)	3,193,392
		次年度繰越金	6,177,323
合計	8,758,631	合計	8,758,631

財産目録

(2014年9月30日現在)

単位:円

資産の部		
現金		119,154
普通預金		105,724,203
(内基本金)		(50,000,000)
みずほ銀行 南大沢支店		94,772,957
三菱東京UFJ銀行 多摩センター支店		10,951,246
郵便振替口座		
首都大学東京同窓会		14,790
小計		105,858,147
造作	八雲クラブ借室改修費用	0
投資有価証券	(株)都立大学同窓会サービス	87,500,000
	株式(1,750株)	
資産合計		193,358,147
負債の部		
前受会費	繰越終身会費	25,338,000
リース残高	積水リース株式会社	202,944
負債合計		25,540,944
差引正味財産		167,817,203

(備考) 繰越終身会費は、10年で償却受け入れ

(注)

繰越金(現預金)の内訳	
一般会計分	49,680,824
特別会計分	6,177,323
基本金	50,000,000
合計	105,858,147

会計監査の結果、上記の報告は 監事 加藤 充子 ㊟
適正であることを認めます。 同 君和田洋之 ㊟
2014年10月30日 同 古川 順光 ㊟

本会計報告は、2014年12月4日(木)開催の評議員会に報告され、審議されることになっています。

第11期予算 (一般会計)

自 2014年10月1日 至 2015年7月31日(10か月予算)

単位:千円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	49,681	会報制作費	6,392
入会金	22,000	会報発送費	4,665
維持会費	6,305	会員情報管理費	2,500
総会・新年会費	1,075	会議費	1,255
記念イベント	8	総会・新年会費	1,662
預金利子	50	記念イベント	0
雑収入	2,702	通信費	390
小計	32,140	学生支援費	2,675
(前年度繰越金を除く)		事務費	450
		人件費	4,725
		八雲クラブ運営費	864
		八雲クラブ賃借料	2,280
		イベント費	430
		組織強化費	600
		雑費	140
		振込手数料等	730
		事務所使用料	379
		OA環境整備費	370
		入会促進費	1,383
		会費納入促進費	
		予備費	250
		小計	32,140
		当年度過不足額(収入-支出)	0
		次年度繰越金	49,681
合計	81,821	合計	81,821

第11期予算 (特別会計)

自 2014年10月1日 至 2015年7月31日(10か月予算)

単位:千円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	6,177	払込票制作等	600
目的寄付	2,675	データベース改定	
維持寄付	984	一般会計への繰入金	2,702
維持寄付(終身)	1,474	小計	3,302
小計	5,133	当年度過不足額(収入-支出)	1,831
		次年度繰越金	8,008
合計	11,310	合計	11,310

八雲クラブ特別会計第10期収支決算報告書

自 2013年10月1日 至 2014年9月30日

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度より繰越金(A)	3,173,773	印刷発送費	1,377,529
会員・会費収入	1,416,400	サロン運営費	328,719
サロン参加費	334,000	講師謝礼	145,000
ビクター利用料	339,800	人件費	336,000
ゴミ処理負担料	0	交通費	103,004
雑収入(預金利子他)	6,538	通信費	63,457
一般会計助成金	864,000	清掃費	52,500
小計(B)	2,960,738	手数料支払など	77,595
		雑費	106,695
		八雲クラブ委員会費	9,483
		振込手数料	2,031
		小計(C)	2,602,013
		今年度損益(D=B-C)	358,725
		次年度繰越金(E=A+D)	3,532,498
合計(A+B)	6,134,511	合計(C+E)	6,134,511

次年度繰越内訳	三井住友銀行渋谷支店	3,367,261
	神南郵便局振替口座	5,500
	手元現金	159,737
	計	3,532,498
	未払金	
	負債合計	0
	次年度繰越金	3,527,498

会計監査の結果、上記の報告は 監事 加藤 充子 ㊟
適正であることを認めます。 同 君和田洋之 ㊟
2014年10月30日 同 古川 順光 ㊟

貸借対照表

(2014年1月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
	円		円
流動資産	30,999,287	流動負債	870,119
現金及び預金	30,999,287	未払金	8,119
固定資産	58,119,440	前受金	600,000
・有形固定資産	58,046,640	預り金	1,900
建物	7,072,960	未払法人税等	260,100
土地	50,973,680	負債の部合計	870,119
・無形固定資産	72,800	純資産の部	
電話加入権	72,800	株主資本	88,250,377
資産の部合計	89,118,727	(資本金)	87,500,000
		資本金	87,500,000
		(利益剰余金)	750,377
		繰越利益剰余金	750,377
		負債及び純資産の部合計	89,120,496

貸借対照表注記事項

原価償却累計額 30,065,760円

損益計算書

自 2013年2月1日 至 2014年1月31日

経常損益の部	
営業損益の部	
【純売上高】	
貸室収入	単位：円
売上総利益	2,350,000
【販売費及び一般管理費】	2,068,007
営業利益	281,993
営業外損益の部	
【営業外収益】	
受取利息	7,534
雑収入	7,534
経常利益	289,527
税引前当期純利益	289,527
法人税等	245,329
当期純利益	44,198
前期繰越利益	750,377
当期末処分利益	794,575

販売費及び一般管理費

自 2013年2月1日 至 2014年1月31日

科目	金額
管理費	504,600 円
警備費	345,444
減価償却費	515,499
修繕費	0
事務用品費	0
消耗品費	14,298
水道光熱費	170,564
旅費交通費	80,080
手数料	103,740
租税公課	206,500
保険料	14,130
通信費	113,152
新聞図書費	
合計	2,068,007

利益処分計算書

単位：円	
【当期末処分利益】	750,377
【次期繰越利益】	794,575
上記の通りご報告申し上げます。	
2014年3月19日	
株式会社 都立大学同窓会サービス	
代表取締役	石橋 穠治
取締役	末光 正忠
取締役	横川 邦明
取締役	杉村 哲雄

会計監査の結果、上記の報告は適正であることを認めます。

監査役 吉田 俊雄
監査役 松本 傳

首都大学東京同窓会・広報委員会
会報編集委員会

黒川 信 (都28・生物)
小原 弘道 (科3・機械)
加藤 充子 (都9・経済)
齋藤 夕子 (医7・地域)
関根 紀夫 (医1・放射)
根谷崎武彦 (都10・化学)
野原 剛 (都4・化学)
柳川 義晴 (都11・経済)
村山 祥彦 (都5・経済)

広報委員会・委員長

今後、人口減少社会の中で、活躍が期待される健康福祉学部同窓生の取り組みをたくさん紹介し、会報誌を通じて交流の機会となるように微力ながらお手伝いできれば幸いです。(齋藤)

同窓会の仲間と出会うことを期待して、同窓会の活動に参加しましたが、本日は叶わずとも、他学部の先輩方の活躍を知り、「井の中の蛙、大海を知る」機会となりました。

「同窓生はいま」のコーナーに、青鳩会から初の保健師の活躍を紹介させて頂く使命を拝命し、数人に交渉する中、同期の仲間に快諾してもらえた時は、ホッとしました。同時に、健康福祉学部の同窓生の活躍ぶりを知らないことに気づきました。

今年度、イベント委員から広報委員へ移籍し、初めて編集作業に携わらせて頂く中、先輩方の人脈の広さに感銘を受けています。

編集後記

2015(平成27)年 首都大学東京同窓会 10周年記念 総会・講演会・新年会

首都大学東京同窓会は、多くの会員の皆様のご支援とご協力により、設立10周年を迎え、会員数も6万人を超えて大きく発展してまいりました。今回の講演会には、各界・各分野でご活躍の同窓生の中から、最近マスコミ等でご活躍の三橋 貴明氏(都立大42期・経済学科卒)を講師としてお願いいたしました。若い世代の会員の方々に出来るだけ多くご参加いただき、昨今の経済状況のお話を拝聴するとともに、先輩・後輩の絆を深め、同期やゼミ、クラブ活動・サークル等で青春を語りあった仲間との再会や、新たな交流をお楽しみください。

会員の皆さま、お問い合わせのうえぜひご出席ください。

- ◆ **日時** 2015年2月1日(日) 受付開始 13時30分 開始 14時 終了 18時
- ◆ **会場** 明治記念館 東京都港区元赤坂2-2-23 ☎03-3403-1171
- ◆ **会費** 当日申込: 1名 8,000円(ご夫妻 15,000円)
事前申込: 1名 7,500円(ご夫妻 14,000円)
グループ事前申込 5名以上 1名 7,000円
学部・大学院 卒業年次別事前申込(2004年以降の卒業の方):
卒業後 5年以内(卒業年次 2009年3月~2014年3月) 1名 5,000円
同 6年~10年以内(卒業年次2004年3月~2008年3月) 1名 5,500円
- ◆ **申込期限:** グループでの申込みの方は、平成26年12月15日までに団体参加者名簿をホームページよりダウンロードして名簿を作成し、事務局にお送りください。
- ◆ **参加費納入期限:** 同窓会報に同封された「新年会参加払込票」で、平成27年1月23日までに「ゆうちょ銀行(郵便局)」に納入ください。なお、グループでのご参加の場合は、別途お送りする「払込票」により、お願いいたします。事前申込みの方々の名札をご用意いたします。納入された参加費は欠席でも返金はお容赦ください。
総会・講演会だけの出席は無料です。
- ◆ **プログラム**
 - 14時~14時40分 第11回総会: 事業報告・決算・事業計画・予算・規約改正等
 - 14時50分~15時50分 講演会
 - ① テーマ「政府と企業—経世済民とは何なのか?」
 - ② 講師: 三橋 貴明(本名 中村 貴司)氏(経世論研究所長・中小企業診断士・経済評論家)
 - ③ 経世済民とは、「世を経(おさ)め、民を済(すく)う」つまり「国民を豊かにするための政治の意味で、「経済」の語源です。そのために政府の取るべき政策は?
 - ④ 講師プロフィール 東京都立大学経済学部卒業(42期1994年卒)、外資系IT企業等で活躍され、2008年に中小企業診断士として独立し、事務所を設立。
テレビ、新聞、ラジオで大活躍中です。著作多数。
 - 16時~18時 新年会 懇親・賀詞交換。来賓として、法人理事長・学長・副学長・学部長他の皆様をお招きしております。
- ◆ **会場へは**
JR(中央・総武線)信濃町駅下車(出口1か所)徒歩5分、地下鉄(銀座・半蔵門・大江戸各線)青山一丁目駅2番出口徒歩8分、(大江戸線)国立競技場駅A1出口徒歩8分
- ※ 問合せ先: 首都大学東京同窓会事務局・同窓会イベント委員会 ☎&Fax 042-670-7702
- ※ 同窓会ホームページ: <http://www.comp.tmu.ac.jp/dousoukai/>

TMU 第10号 2014年11月20日 発行

発行 首都大学東京同窓会
〒192-0364 東京都八王子市南大沢1-1
直通 TEL・FAX 042-670-7702
TEL 042-677-1111(代)(内 2181)
電子メール tmu-al@tmu.ac.jp
ホームページ <http://www.comp.tmu.ac.jp/dousoukai/>
郵便振替口座 00150-0-426678

印刷 京浜印刷株式会社
〒140-0013 東京都品川区南大井4-7-3
TEL 03-3763-7321
FAX 03-3764-6839